

2022年3月期 投資家向け説明会

2022年5月13日
ソフトバンクグループ株式会社



免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（Arm Limitedを含み、以下SBGと併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものでもありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績の保証を意味するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBGの重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SBファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBGのホームページの「事業等のリスク」 (https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依存してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測又は予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SBファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBGの普通株式の取引、スポンサーなしADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBGの普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBGの開示は、スポンサーなしADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADRの取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBGは、SBGの普通株式に関するスポンサーなしADRプログラムの設立又はそれに基づき発行されるADRの発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBGは、ADR保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBGが1934年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBGのホームページに、SBGが証券取引所法ルール12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づくSBGの普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG及び当社グループは、SBGの普通株式を表象するスポンサーなしADRに関連して、ADR保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社やZホールディングス株式会社などの、スポンサーなしADRプログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又はSB Global Advisers Limited（以下「SBGA」）、SB Investment Advisers (UK) Limited（以下「SBIA」）、SBLA Advisers Corp.（以下「SBLA」）及びそれらの関係会社を含むSBGの子会社（以下併せて「SBファンド運用会社」）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SBファンド」）のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SBファンドは、他のファンド同様、それぞれSBIAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 1」または「SVF1」）と、SBGAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund II-2 L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 2」または「SVF2」）を含み、また、SBLAとその関係会社によって運用されているSBLA Latin America Fund LLC（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」または「LatAm Fund」）¹を含みます。

SBファンド（ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む）、SBファンド運用会社、SBファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらず表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報はSBファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又はSBファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SBファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連するSBファンド、本資料に言及されるその他のファンド又はSBファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SBファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連するSBファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SBファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連するSBファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載されるSBファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額は、関連するSBファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因（例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。）に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連するSBファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつかの要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連するSBファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SBファンド又はSBファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各SBファンド又は関連するSBファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びバンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SBファンド運用会社、SBファンドのポートフォリオ会社、SBファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又はSBGが、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA、SBIA及びSBLAは、ビジョン・ファンド 2、ビジョン・ファンド 1 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互にSBGからそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA、SBIA又はSBLAによって運用されるSBファンドは、それぞれSBGA単独、SBIA単独又はSBLA単独で運用されています。

¹ 2022年4月22日より、ラテンアメリカ・ファンドについても、SVF2のオルタナティブ投資ビークルとしてSBGAとその関係会社が運用することとなりました。

本資料における為替換算レート

(円)

| 期中平均レート | FY20/Q1 | FY20/Q2 | FY20/Q3 | FY20/Q4 | FY21/Q1 | FY21/Q2 | FY21/Q3 | FY21/Q4 |
|---------|----------|----------|-----------|----------|----------|----------|-----------|----------|
| 1米ドル | 107.74 | 105.88 | 104.45 | 106.24 | 110.00 | 110.47 | 113.60 | 117.10 |
| 1人民元 | 15.16 | 15.27 | 15.71 | 16.31 | 17.01 | 17.09 | 17.75 | 18.43 |
| 期末レート | 2020/6月末 | 2020/9月末 | 2020/12月末 | 2021/3月末 | 2021/6月末 | 2021/9月末 | 2021/12月末 | 2022/3月末 |
| 1米ドル | | | | 110.71 | | | | 122.39 |
| 1人民元 | | | | 16.84 | | | | 19.26 |

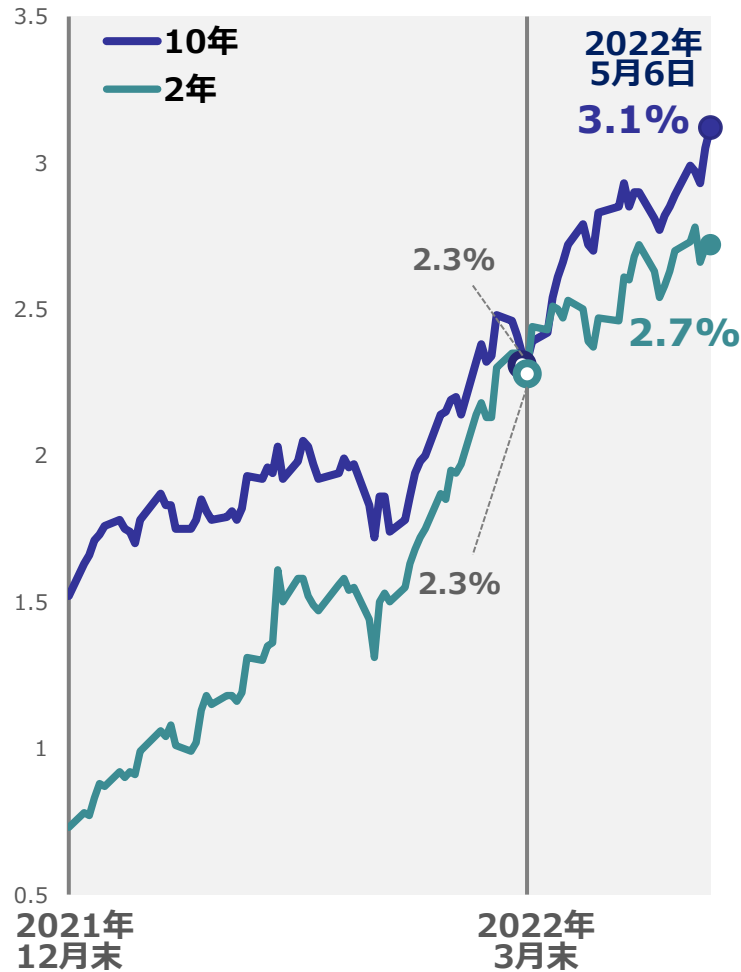
略称について

本資料では、以下の略称は以下の意味を指す。なお、企業名から「株式会社」や「株」を省略している箇所がある。

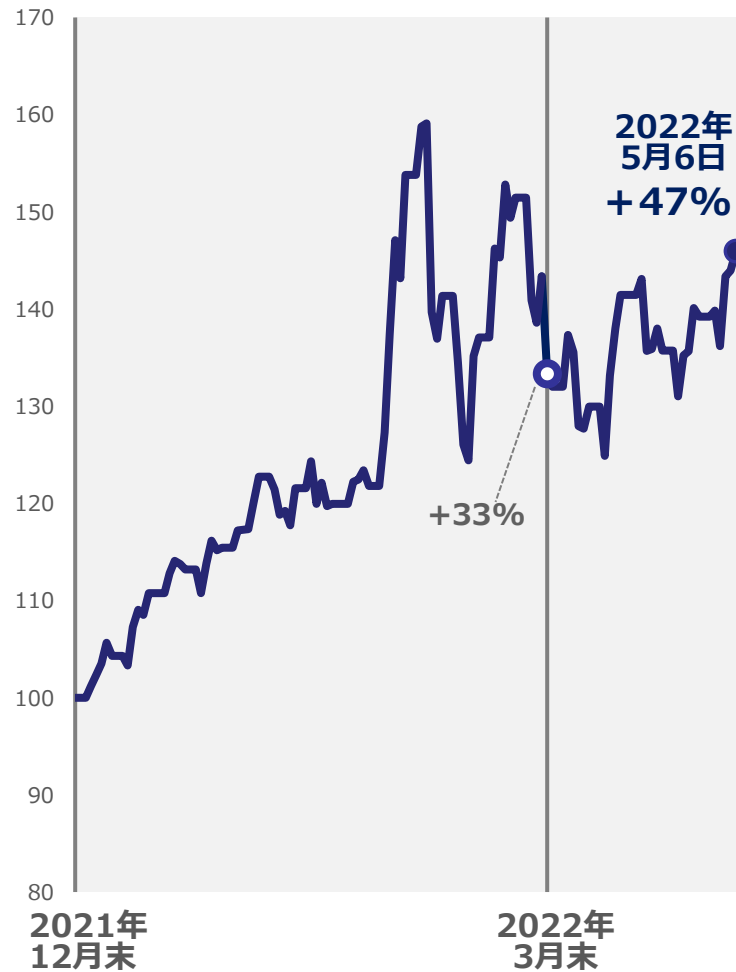
| 略称 | 意味 (傘下子会社がある場合、それを含む) |
|----------------------------|--|
| SBG | ソフトバンクグループ(株) (単体) |
| 当社 | ソフトバンクグループ(株)および子会社 |
| SBKK | ソフトバンク(株) |
| SB Northstar | SB Northstar LP |
| SVF1 または ソフトバンク・ビジョン・ファンド1 | SoftBank Vision Fund L.P. および代替の投資ビークル |
| SVF2 または ソフトバンク・ビジョン・ファンド2 | SoftBank Vision Fund II-2 L.P.および代替の投資ビークル |
| ラテンアメリカ・ファンド | SBLA Latin America Fund LLC |
| SBIA | SB Investment Advisers (UK) Limited |
| SBGA | SB Global Advisers Limited |
| SBGC | SoftBank Group Capital Limited |
| スプリント | Sprint Corporation |
| Tモバイル | スプリントと合併後のT-Mobile US, Inc. |
| ドイツテレコム | Deutsche Telekom AG |
| アーム | Arm Limited |
| アリババ | Alibaba Group Holding Limited |
| WeWork | WeWork Inc. |

環境認識について

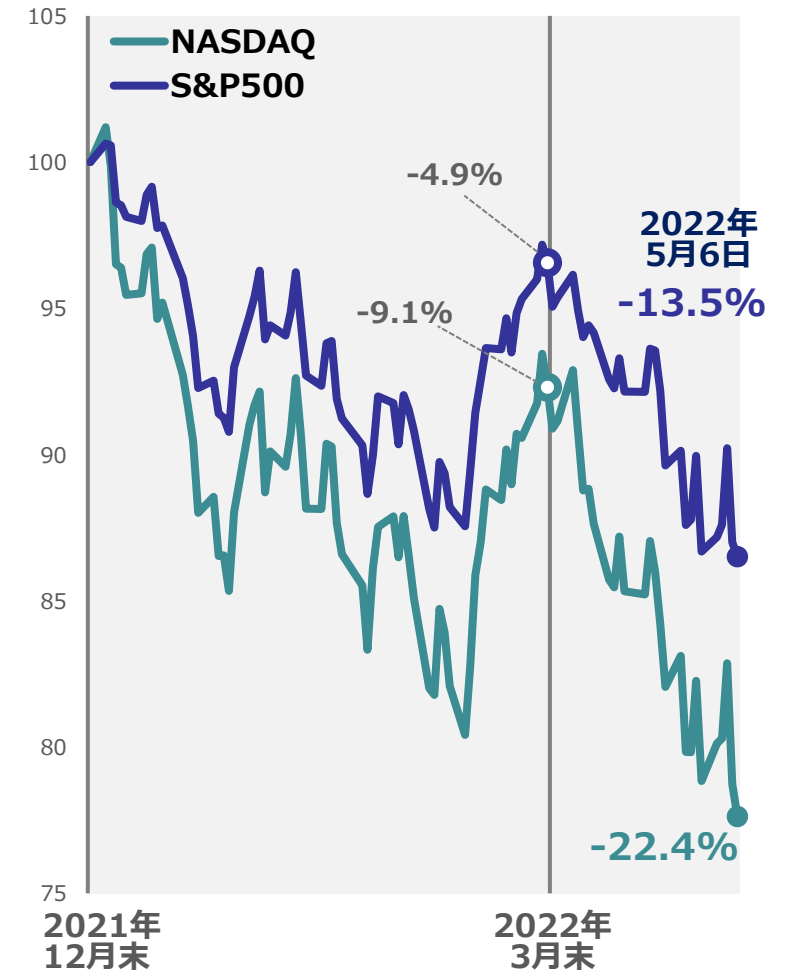
米国の金融政策の動向とロシア・ウクライナ問題による地政学リスクの高まり



米国国債金利



原油価格(WTI)
(2021年12月末を100として指数化)



NASDAQ総合指数・S&P500
(2021年12月末を100として指数化)

(注) S&P Capital IQを基に当社作成

環境認識について

米中両国の政策動向を受け、米国上場の中国株式は下落傾向

中国国内の規制および政策動向

- 21年 6月：データセキュリティ法可決
- 21年 8月：共同富裕の発表
- 22年 3月：全国人民代表大会（全人代）
- 22年夏頃：北戴河（ほくたいが）会議
- 22年秋頃：中国共産党第20回党大会

米国による中国企業への規制状況

- 20年12月：外国企業説明責任法制定
- 21年12月：外国企業説明責任法による情報開示義務の最終規則公表
- 22年3月：中国当局が規制遵守の姿勢を示す
- 22年5月：SECが約80社を上場廃止警告リストに追加



(注) Bloombergを基に当社作成

環境認識

- ◆ 現在の外部環境はボラティリティが高く、資本市場においてはリスクテイクの動きが停滞
- ◆ 特にロシア・ウクライナ問題に起因する地政学リスクの高まりと中国の政策動向により、現状の不透明感が当面続くものと思われる

FY21の当社の状況

- ◆ 不安定な市場環境のもと、保有株式価値は下落
- ◆ 一方で財務方針を堅持。2022年3月末もLTV < 25%を堅持
- ◆ 財務規律の範囲内で、新規投資と自社株買いも継続
- ◆ SVFによるユニコーン投資とアームが成長戦略の二本柱

更なるダウンサイドに備えつつ、
今後6-12カ月はリスク要因の見極めを図りながら、慎重な運営を続ける

財務編

“SBG単体”の財務指標は、別段記載のない限り、連結グループから独立採算子会社を除いた数値を示します。独立採算子会社は、SBKK（Zホールディングスをはじめとする子会社を含む）、SVF1、SVF2、ラテンアメリカ・ファンド、アームおよびPayPay等です。

不安定な市場環境下でも財務方針を堅持し、投資活動と株主還元を着実に継続

| | |
|----------------------|---|
| <p>業績・NAV</p> | <p>主に上場投資先の株価下落により純損失1兆7,080億円を計上</p> <ul style="list-style-type: none"> - 投資損失を3兆4,347億円、純損失*2を1兆7,080億円計上 - NAVは18.5兆円（前年度末比31%減少） |
| <p>財務活動</p> | <p>安定的な財務運営のもと、着実に資金調達を実行</p> <ul style="list-style-type: none"> - LTV 20.4%、手元流動性 2.9兆円*3 - アセットバック・ファイナンス +\$22.3B（純額）（アリババ、アーム、Tモバイル、ドイツテレコム） - 社債発行、償還 +1兆481億円（純額） |
| <p>投資活動</p> | <p>新規投資と収穫およびポートフォリオの分散が進展。自社株買いも実行</p> <ul style="list-style-type: none"> - ファンドによる投資：\$44.2B（SVF1&2）、\$4.3B（ラテンアメリカ・ファンド） - ファンドの売却・資金化：合計\$24.6Bの売却や資金化（SVF1&2） - ファンドからの分配：SVF1 & 2から合計\$15.2B*4の分配金受領（SBG） 投資からの分配金を再投資へ - ポートフォリオの分散：保有株式価値に占めるアリババの割合は23%に - 自社株買い：4,330億円（2021年11月～2022年4月） |

*1 別途記載がある場合を除き、2022年3月31日時点

*2 親会社の所有者に帰属する純損失

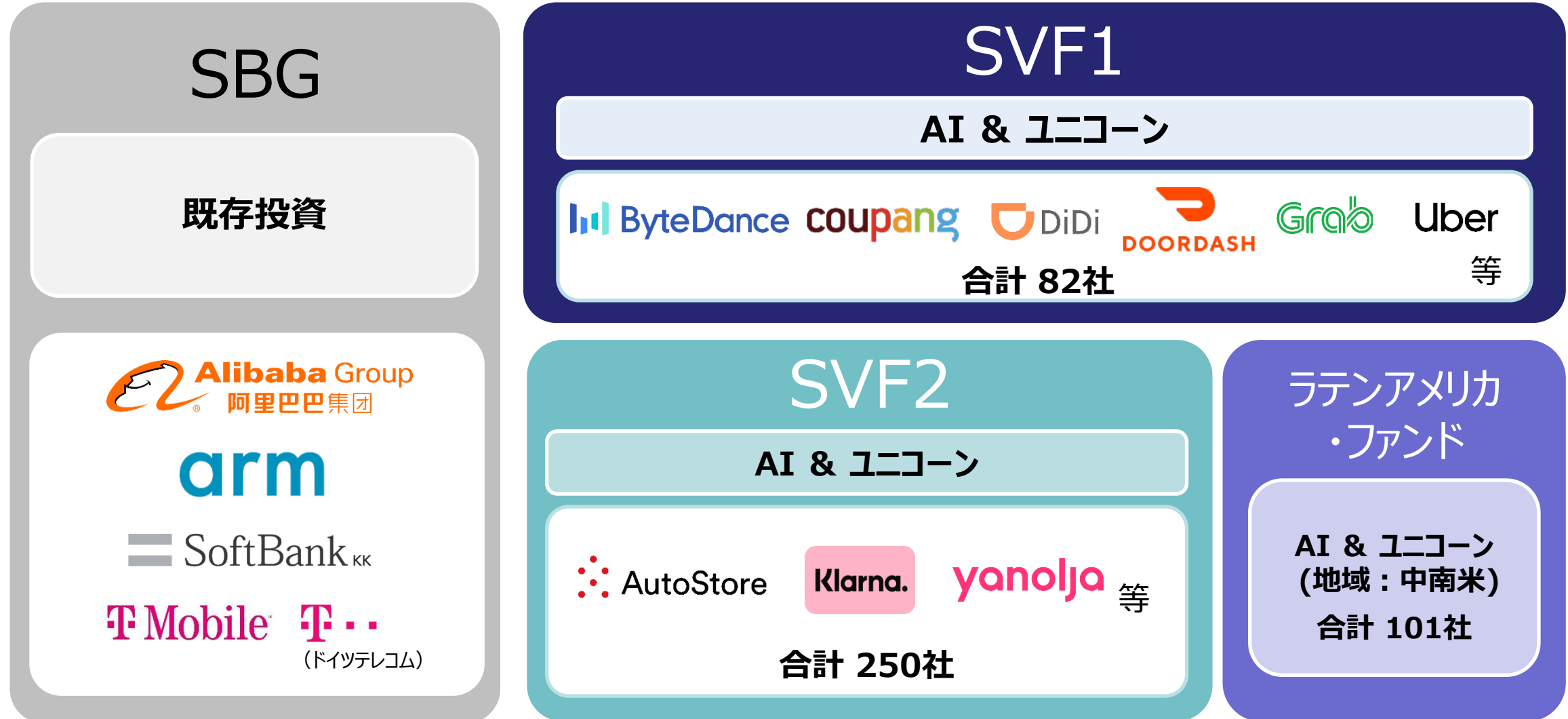
*3 現金及び現金同等物＋流動資産に含まれる短期投資＋コミットメントライン未使用枠。2022年3月末のコミットメントライン未使用枠は1,247億円。SBG単体ベース（SB Northstarを除く）

*4 SVF1のインセンティブスキームへの分配金（\$1.0B）を含む。

-
- **投資事業の状況**
 - 財務の状況
 - 財務戦略
 - ESGの推進

グループの投資活動

複数の投資エンティティがそれぞれの分野で活動し、本格的なAI時代の到来に備える



(注)

- 2022年3月31日時点で保有する投資先を記載
- 本頁の情報はグループの投資活動の説明目的でのみ記載されており、各投資エンティティの投資対象を網羅するものではない。

ソフトバンクグループ = 情報革命の資本家

- 資本を提供することによって、投資先やグループ会社と情報革命を推進し、ビジョンを実現
- 中長期視点での投資リターンの最大化に注力

SVF等を通じて世界のユニコーン企業に投資

- 投資先を通じてAIによるイノベーションを促す

アームのさらなる成長とエコシステムの確立

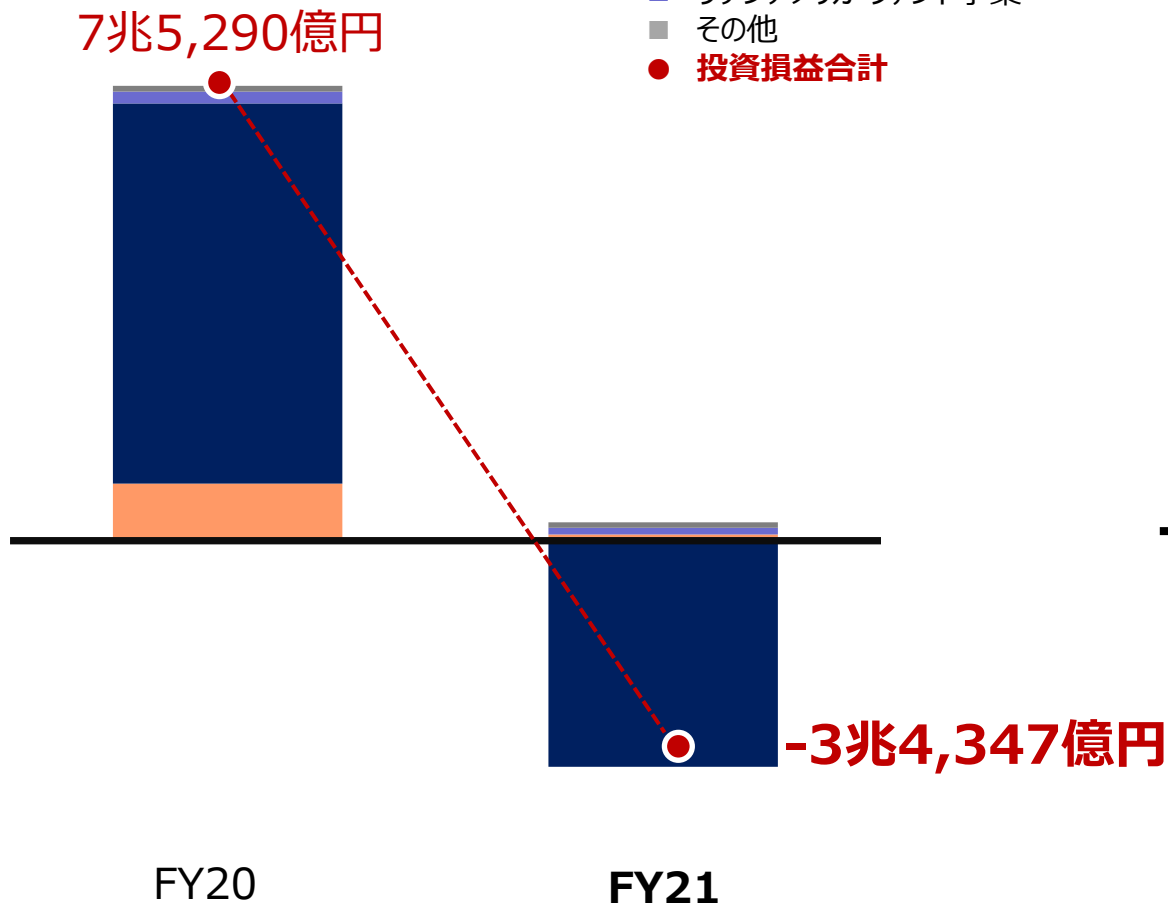
- 情報革命のあらゆる分野でのアームアーキテクチャーの浸透

投資損益・純利益

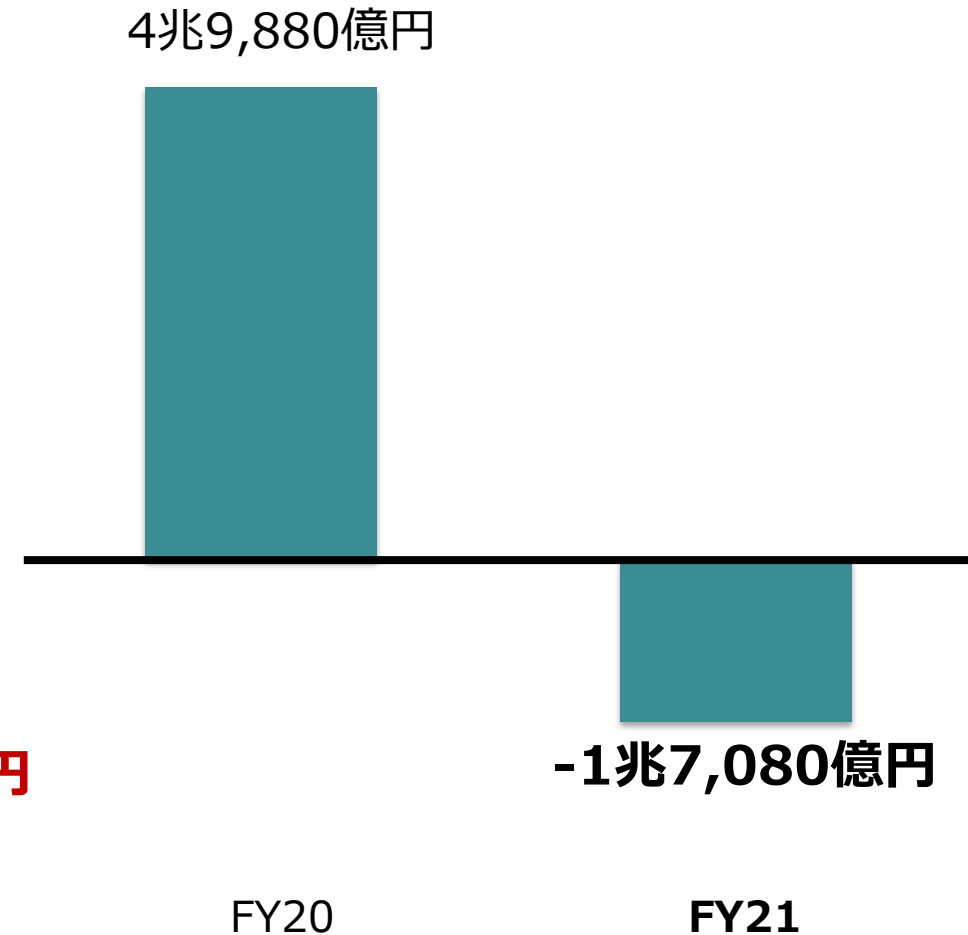
投資損失3兆4,347億円、連結純損失1兆7,080億円を計上

投資損益

- 持株会社投資事業
- SVF1&2
- ラテンアメリカ・ファンド事業
- その他
- 投資損益合計



純利益 (親会社の所有者帰属分)



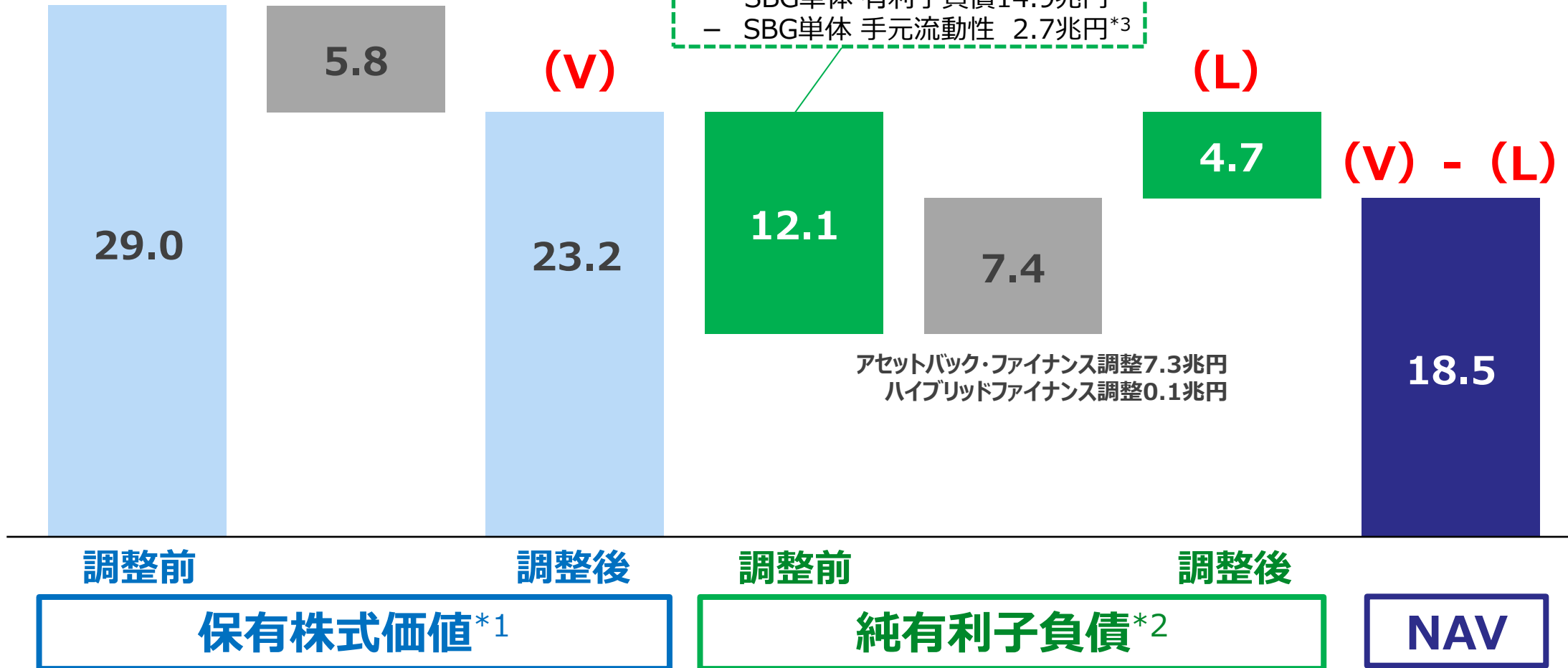
NAV (Net Asset Value) の計算 (2022年3月末時点)

NAVは18.5兆円

(兆円)

アセットバック・ファイナンス調整

SBG単体 有利子負債14.9兆円*3
 - SBG単体 手元流動性 2.7兆円*3



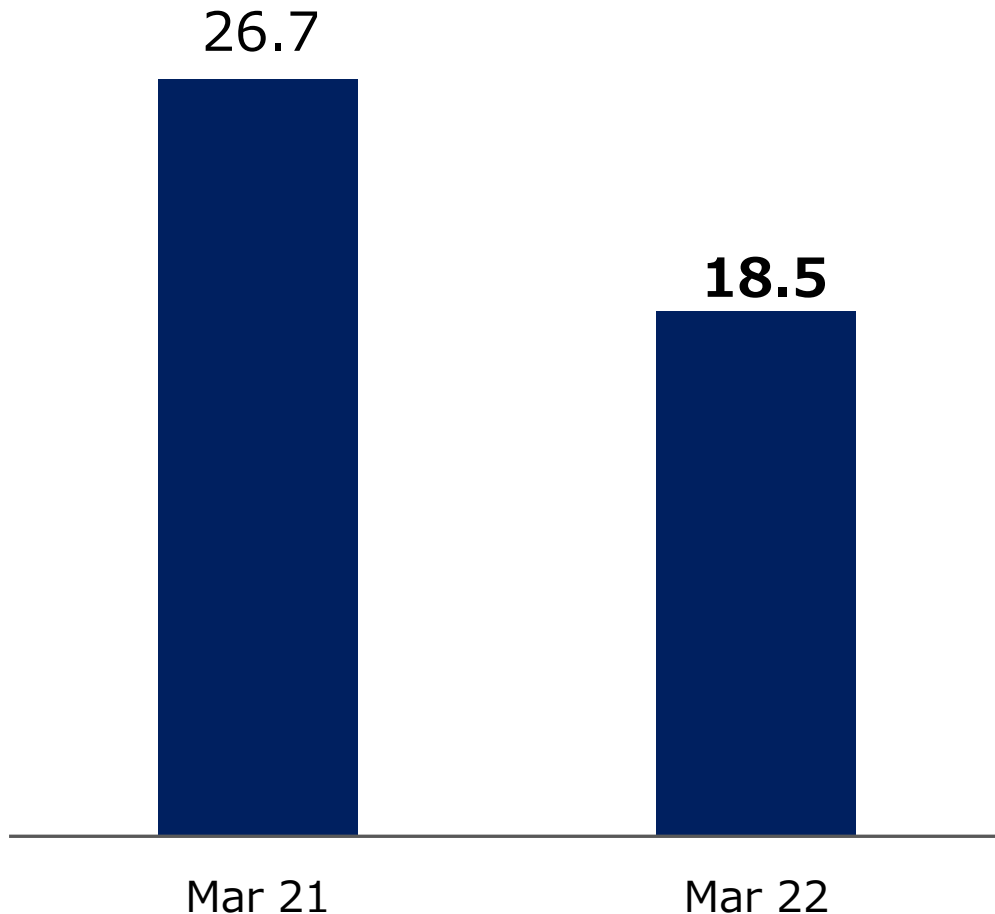
*1 詳細についてはp48~51を参照
 *2 詳細についてはp52~53を参照
 *3 SB Northstarを除く。

NAV・1株当たりNAV

NAVは前年度末比31%減少

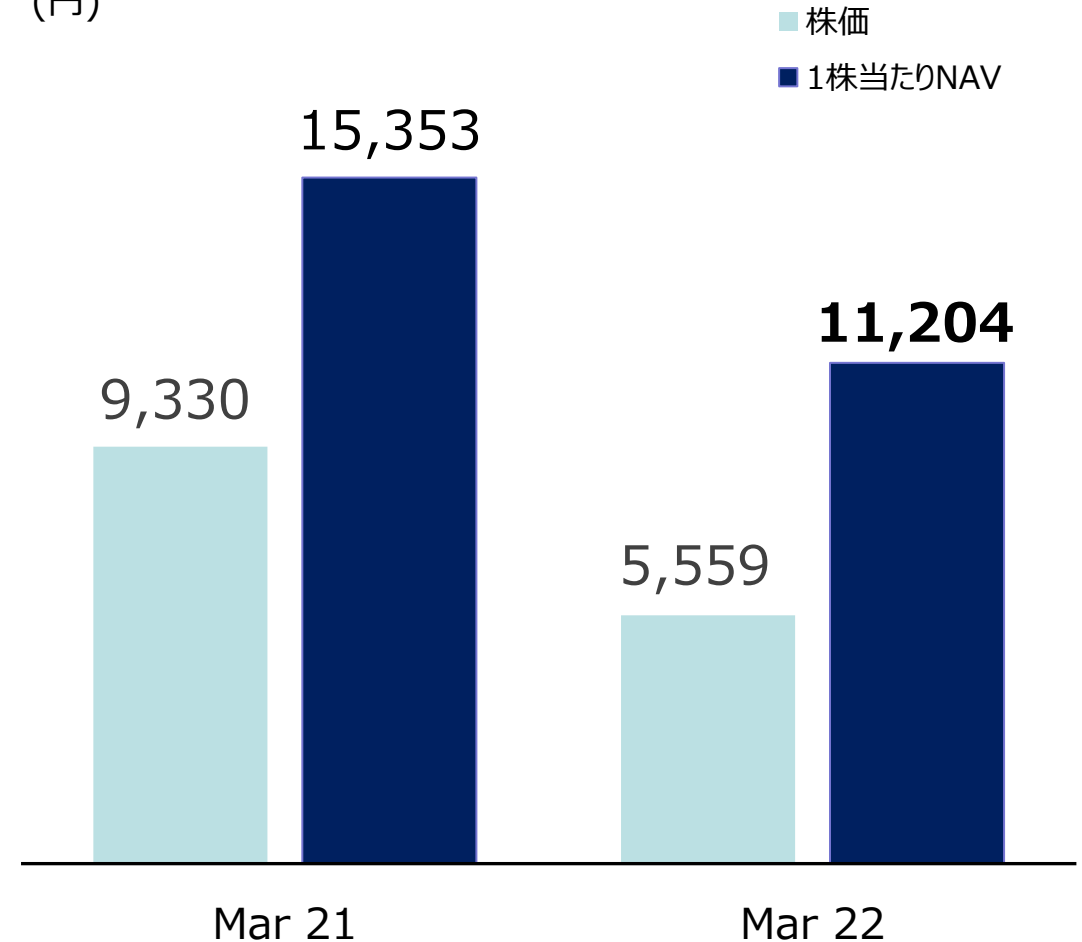
NAV (Net Asset Value)

(兆円)



1株当たりNAV*1と株価

(円)



(注) 各年度末時点

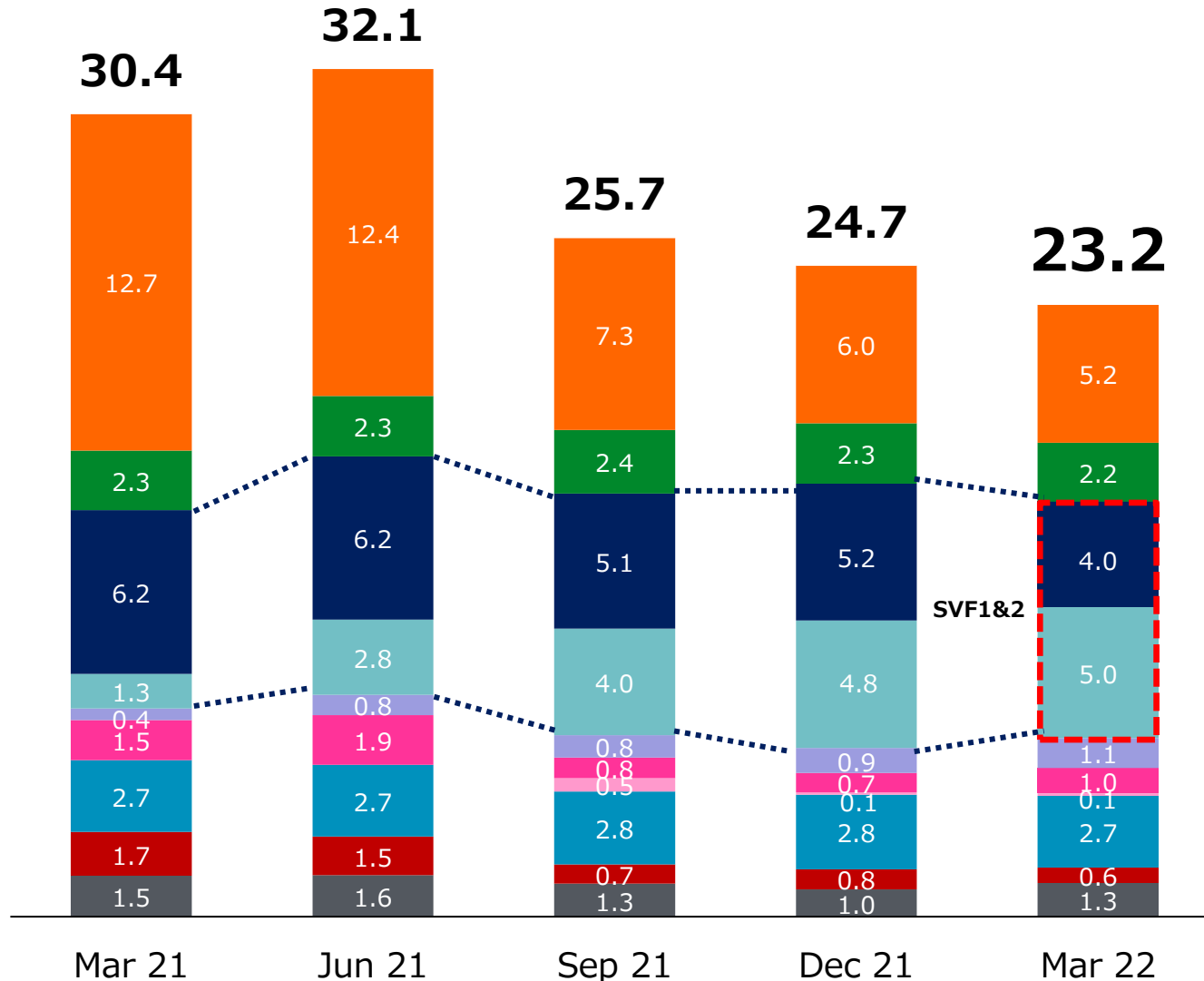
*1 1株当たりNAV = NAV ÷ 発行済株式総数 (自己株式を除く)

保有株式価値

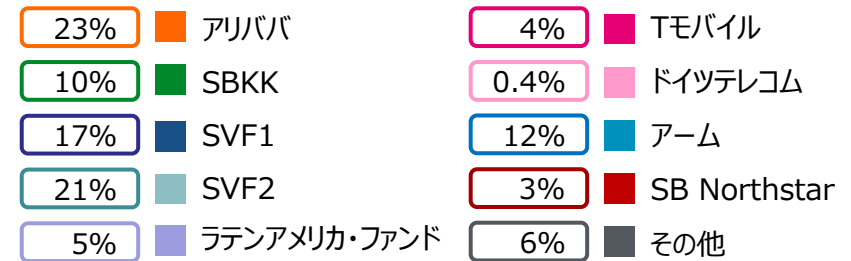
保有株式価値は23.2兆円に減少

アセットバック・ファイナンス除く

(兆円)



構成比 (2022年3月31日時点)



2022年3月末時点の詳細はAppendix参照

(注) 各四半期末時点

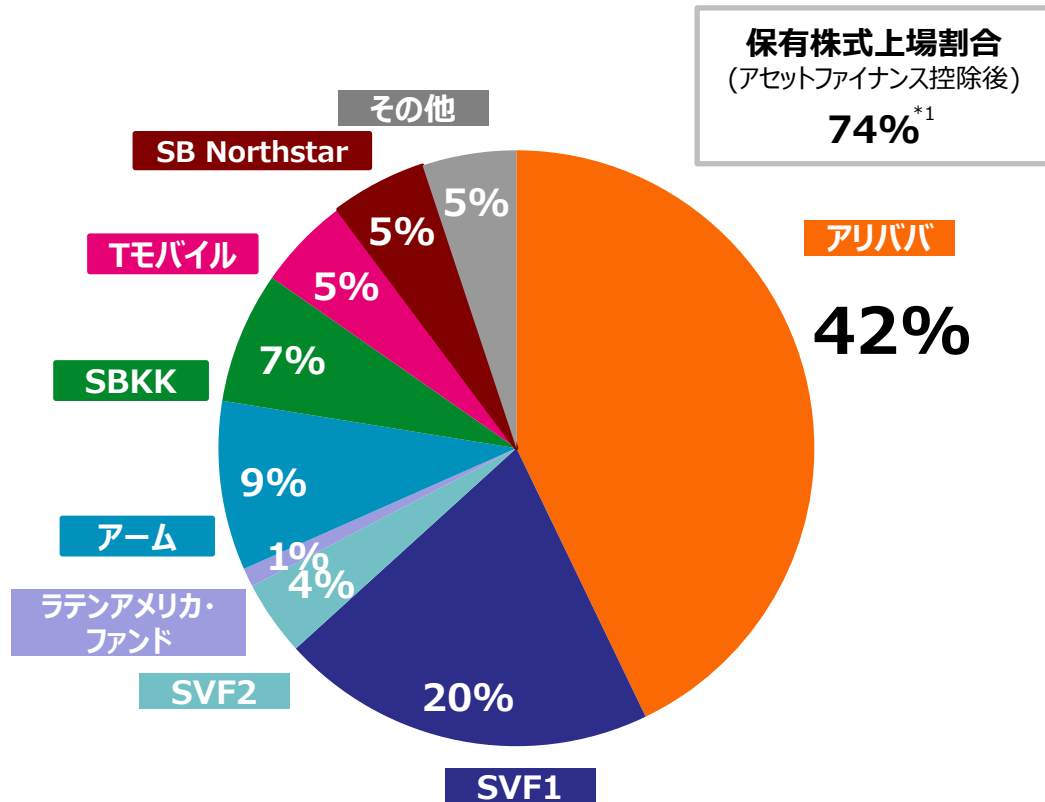
- アリババ: SBGの保有株式数に相当する米国預託証券数に同証券の株価を乗じ算出。アリババ株式を活用した複数の先渡売買契約（フロア契約・カラー契約・フォワード契約・コールスプレッド）のうち、未決済分の満期決済金額（同社株価（米国預託証券）で算出）の合計額、アリババ株式を活用したマージン・ローンの負債残高相当額を控除。
- SBKK: SBGの保有株式数に同社株式の株価を乗じて算出。SBKK株式を活用したマージン・ローン負債残高相当額を控除
- SVF1: SVF1の保有資産価値相当に対するSBGの持分 + 成功報酬の見込金額等
- SVF2: SVF2の保有資産価値相当に対するSBGの持分等
- ラテンアメリカ・ファンド: ラテンアメリカ・ファンドの保有資産価値相当に対するSBGの持分 + 成功報酬の見込金額
- Tモバイル: SBGの保有株式数に同社株価を乗じて算出（ドイツテレコムが保有する株式購入オプションの対象となる株式数（2022年3月末時点: 56,124,954株）を含む）。一定の条件下でTモバイル株式（48,751,557株）をSBGが無償で取得できる権利の公正価値およびTモバイルによる現金強制転換証券を発行する信託へのTモバイル株式の売却取引に関連し、一定の条件下でSBGの子会社がTモバイル株式を取得できる権利の公正価値を加算。ドイツテレコムが保有する未行使の株式購入オプションに係るデリバティブ金融負債の金額、Tモバイル株式を活用したマージン・ローンの借入総額のうち、ノンリコースのアセットファイナンスとしている金額およびTモバイル株式を活用した先渡売買契約（カラー契約）の満期決済金額を控除。（Tモバイル株式を活用したマージン・ローンについては、例外的にSBGが一部保証しているため、当該保証債務の上限枠を控除した金額をノンリコースのアセットファイナンスによる借入額としている）。
- ドイツテレコム: SBGの保有株式数に同社株価を乗じて算出。同社株式を活用したカラー取引の満期決済金額を控除
- アーム: SBGによる取得時の対価を基準とし、SVF1の保有株式数を除いて算出（FY2021Q3まで）。SVF1において算出されたアームの全株式の公正価値に基づきSBG持分（発行済株式の75.01%）の公正価値から、SBGが保有する同社株式を活用したアセットバック・ファイナンスによる借入の負債残高相当額を控除して算出。
- SB Northstar: SB NorthstarのNAV（Net Asset Value）に対するSBGの持分に、SBGが保有するNVIDIA Corporation株式数に同社株価を乗じた価値を加算して算出。SB Northstarが2020年10月に実行したアリババ株式を活用したマージン・ローンの負債残高相当額を加算して算出（FY2021Q1まで）。
- その他: 上場株式は、SBGの保有株式数に各上場株式の株価を乗じて算出。非上場株式はSBGが保有する未上場株式等の公正価値（公正価値で測定していない株式等はSBGのBS上の簿価）に基づいて算出

保有株式価値：ポートフォリオの分散

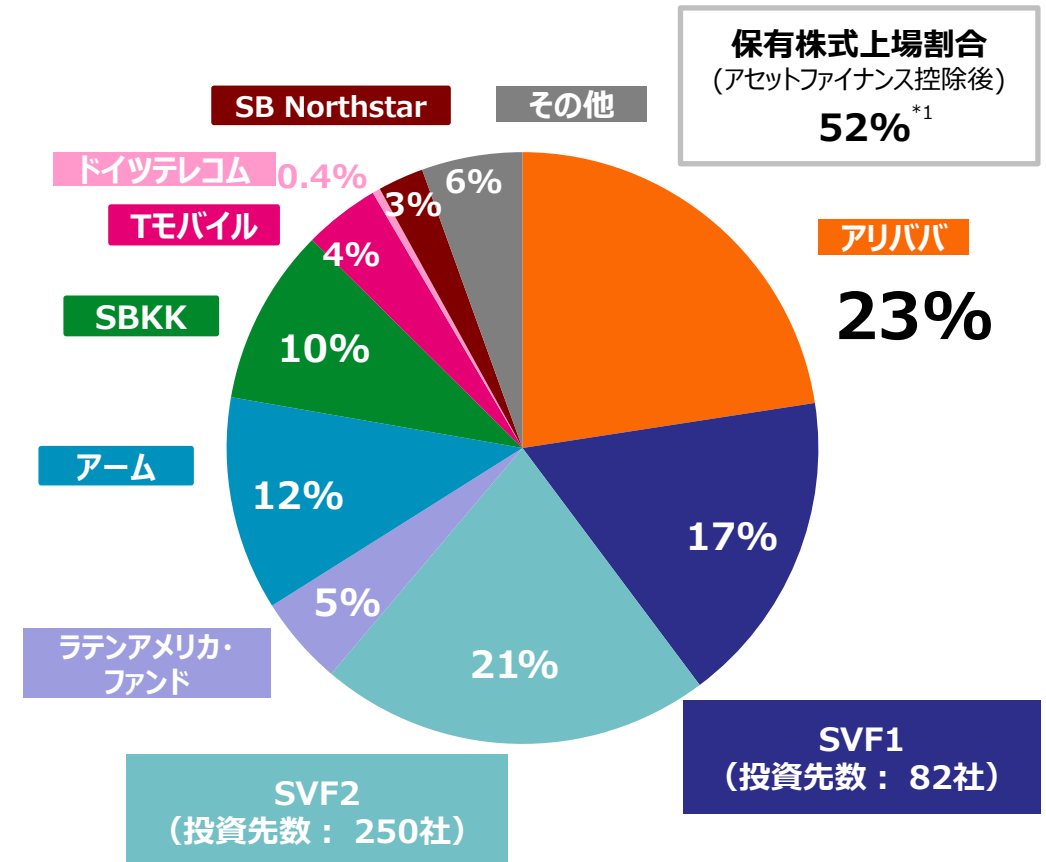
SVF2などの投資進捗により資産の分散が進む

アセットバック・ファイナンス除く

2021年3月末



2022年3月末

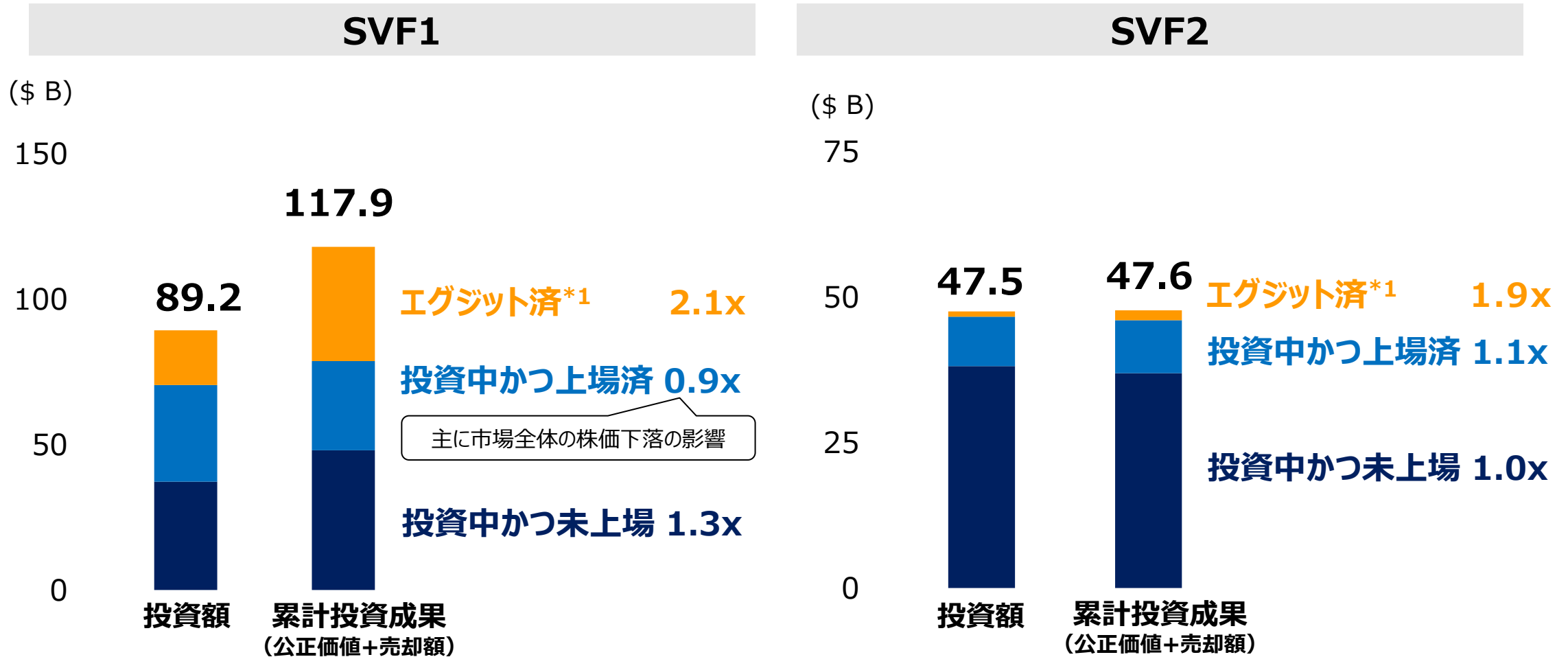


(注) 保有株式価値の内訳は、財務編p48を参照

*1 保有株式価値（総額）に占める、上場株式の割合。アリババ、SVF1・SVF2・ラテンアメリカ・ファンドおよびSB Northstarが保有する上場株式、SBKK、Tモバイル、ドイツテレコム、およびその他のうちの上場株式を含む（ただし、SVF1・SVF2はSBGの持分のみを含む）。

SVF1&2：累計投資成果（SBG連結ベース、2022年3月末時点）

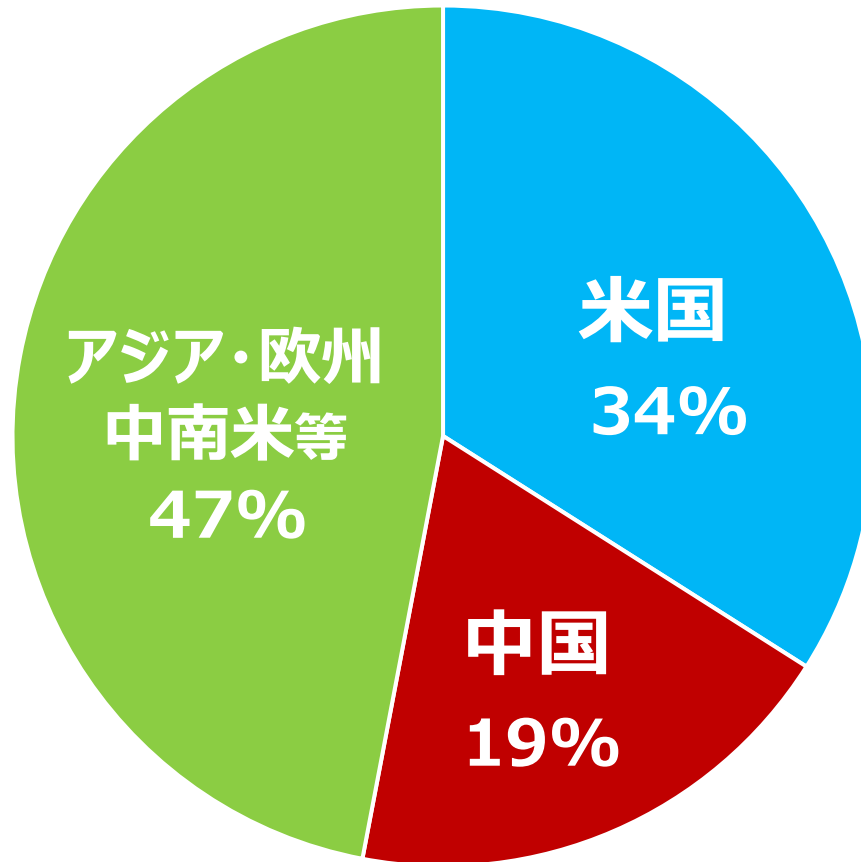
累計投資成果はSVF1で\$117.9B、SVF2で\$47.6B



(注)
 1. 当社からSVF1への移管が決定されていたものの実行されなかった投資について、移管の取りやめを決定するまでの期間に発生した未実現評価損益は含めていない。
 2. 外部投資家持分および税金等の控除前
 *1 エグジット済には、投資に係るデリバティブ関連損益および投資先からの利息や配当金を含む。

SVF1&2等投資先 時価 (2022年3月末時点・売却済除く)

地域別構成比は2021年12月末比でほぼ横ばい



中国への投資（時価）は
12月末比で減少したが、
他地域の時価も減少

(注)
 1. SVF1&2等：SVF1, SVF2、ラテンアメリカ・ファンド、その他のSBGによる上場投資および非上場投資（アリババ、Tモバイル、ドイツテレコム、SBKK、アーム、SB Northstarを除く）
 2. 時価に基づく比率を表示
 3. 時価：2022年3月末時点の公正価値（公正価値で測定していない株式等はSBGのBS上の簿価）に基づき算出。売却済除く
 4. 国・地域：投資先の本社所在地に基づき定義
 5. アジア：中国を除く

SVF1&2：平均投資額の縮小

SVF2の1社あたり平均投資額は\$0.2B

SVF1

1社あたり平均投資額



累計投資額 **\$87B**

累計投資件数 **94件**

(株式交換や現物配当により取得した4件を除く)

SVF2

1社あたり平均投資額



累計投資額 **\$41B**

累計投資件数 **242件**

(SBGからSVF2に移管された9件を除く)

(注)

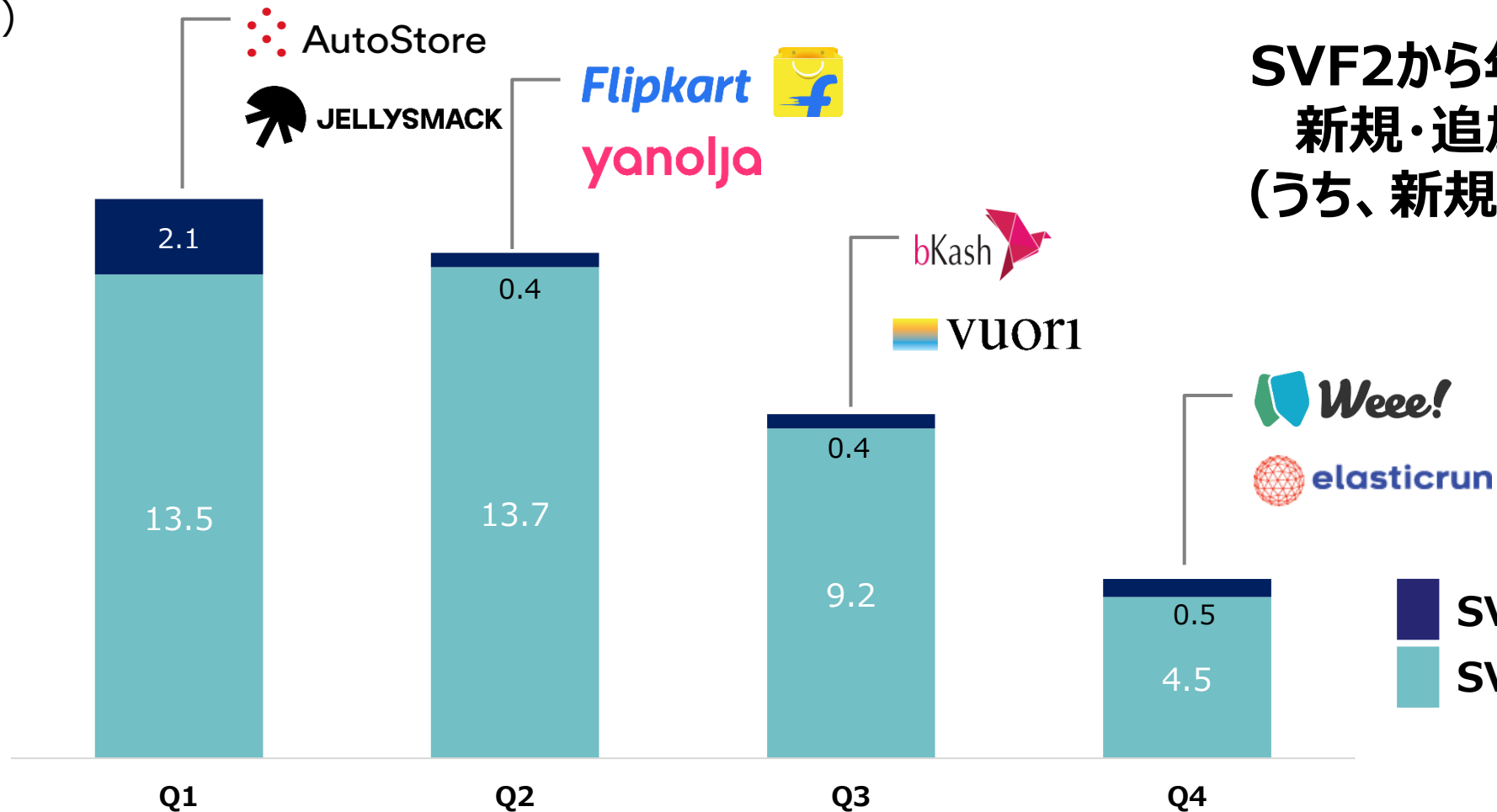
1. 2022年3月31日時点
2. 累計投資額および累計投資件数にはエグジット済みの投資先を含む。

SVF1&2の投資活動（FY21）：投資

SVF2を中心に、SVF1&2から合計\$44.2Bの新規・追加投資を実行



(\$B)



SVF2から年間\$40.8Bの新規・追加投資を実行
(うち、新規投資207銘柄)

SVF1&2の投資活動（FY21）：新規上場

大型上場を複数実施し、合計21銘柄が新規上場



| ファンド | 上場済み | | | | | |
|------|--------------------------------------|---------------|-------------------------|-----------------|-----------|------|
| SVF1 | | COMPASS | | | 满帮 *1 | |
| | | policy bazaar | ROIVANT SCIENCES | 商汤 | wework *1 | |
| | 計12銘柄、公正価値合計\$13.9B（2022年3月末） | | | | | |
| SVF2 | 创新奇智 | | | 叮咚买菜 (Dingdong) | | |
| | 满帮 *1 | | JDL 京东物流 (JD Logistics) | | wework *1 | 掌门教育 |
| | 計11銘柄、公正価値合計\$8.5B（2022年3月末） | | | | | |

(注) 投資の売却又はIPOに関する情報への言及は、SVF1およびSVF2の過去及び現在の投資対象のうち上場に係る情報の提供のみを目的としており、SVF1およびSVF2の投資対象の全てを網羅するものではない。SVF1およびSVF2の特定の投資対象に関する情報への言及は、特定の投資対象又は有価証券の勧誘として解釈してはならない。過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではない。SBIAが、同社の投資に係る目的、方針及び戦略を実行又は達成するという保証はない。本資料に記載される計画の実現は、投資家の同意又は監督官庁の承認等の不確実性とリスクを含み、ここに記載の全て又は一部の条件で実現することを保証するものではない。

*1 SVF1およびSVF2からの投資

SVF1&2の投資活動（FY21）：売却・資金化

合計\$24.6Bの売却・資金化*1,2を実施

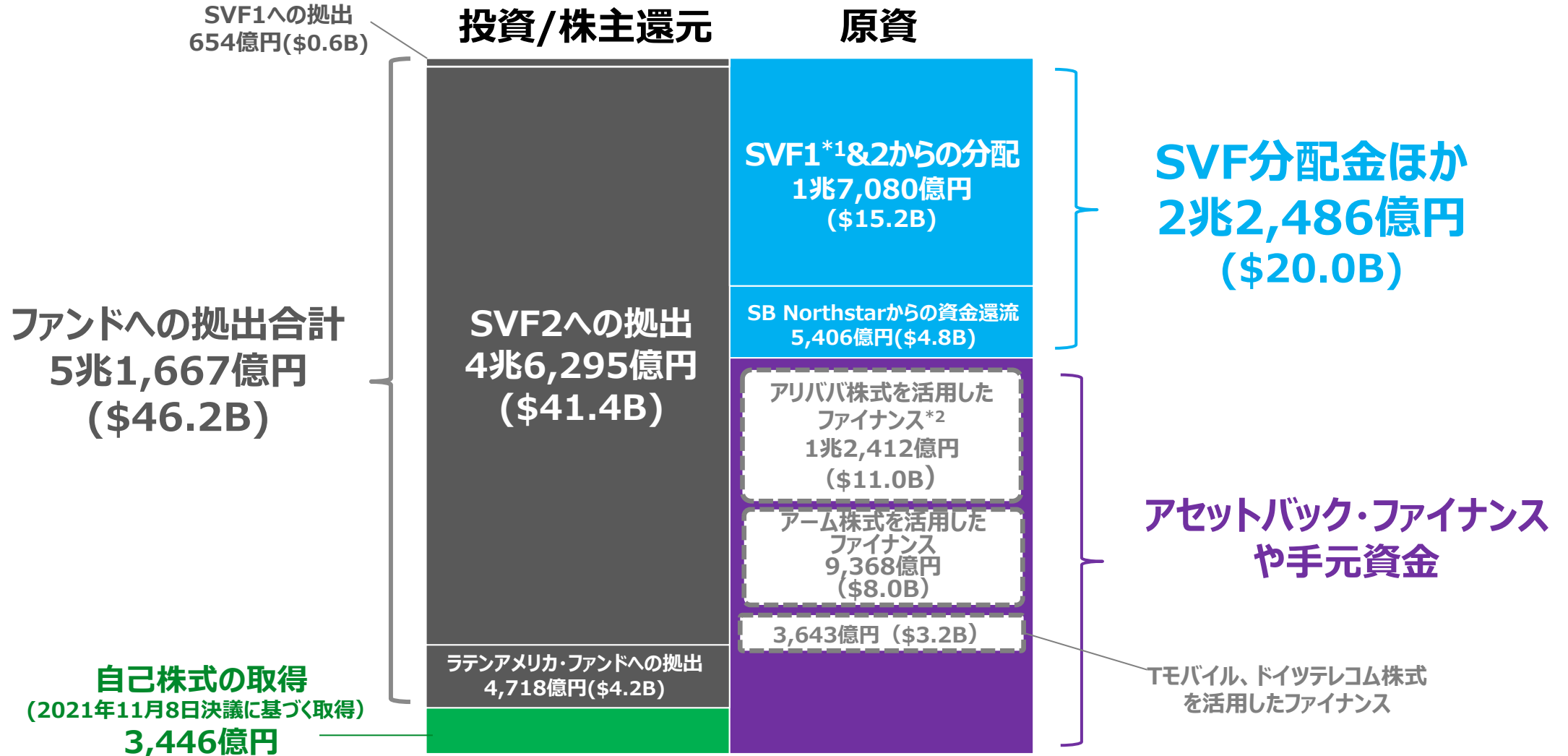
| | 投資 | 新規上場 | 売却・資金化 |
|------|----|------|--|
| ファンド | | | 売却・資金化*1 |
| SVF1 | | | 等、計13銘柄の一部と2銘柄*1の全株式を売却 |
| | | | 合計\$16.5B*1,2 |
| SVF2 | | | KE Holdings (Beike) (一部) 等、計3銘柄の一部と1銘柄の全株式を売却 |
| | | | 合計\$8.1B*2 |

*1 株式交換を除く。

*2 アセットバック・ファイナンスを含む。

投資と回収のサイクル (FY21)

約2.2兆円を回収し新規投資へ充当。自己株式の取得も継続



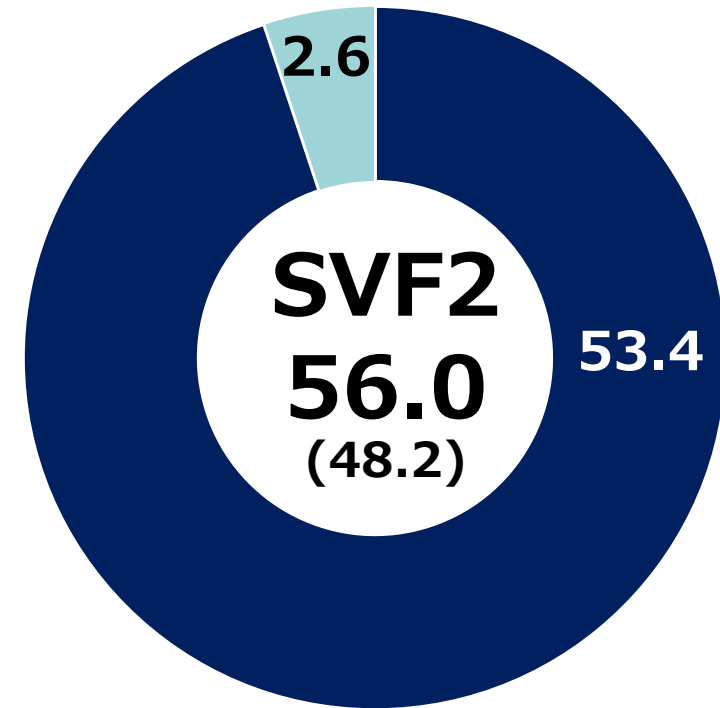
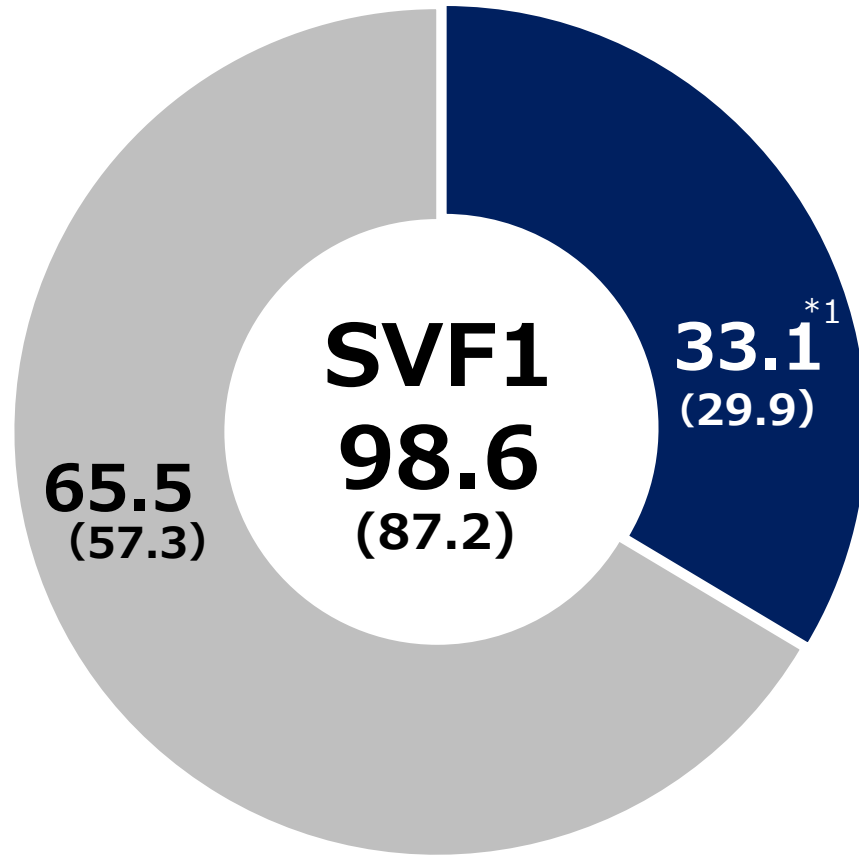
(注) 各四半期の期中平均レートで換算

*1 SVF1のインセンティブスキームへの分配金 (\$1.0B)を含む。

*2 アリババ株式を活用した先渡し買契約およびマージン・ローンによる調達額 (純額)

SVF1&2 : コミットメント状況 (2022年3月末時点)

(\$ B)



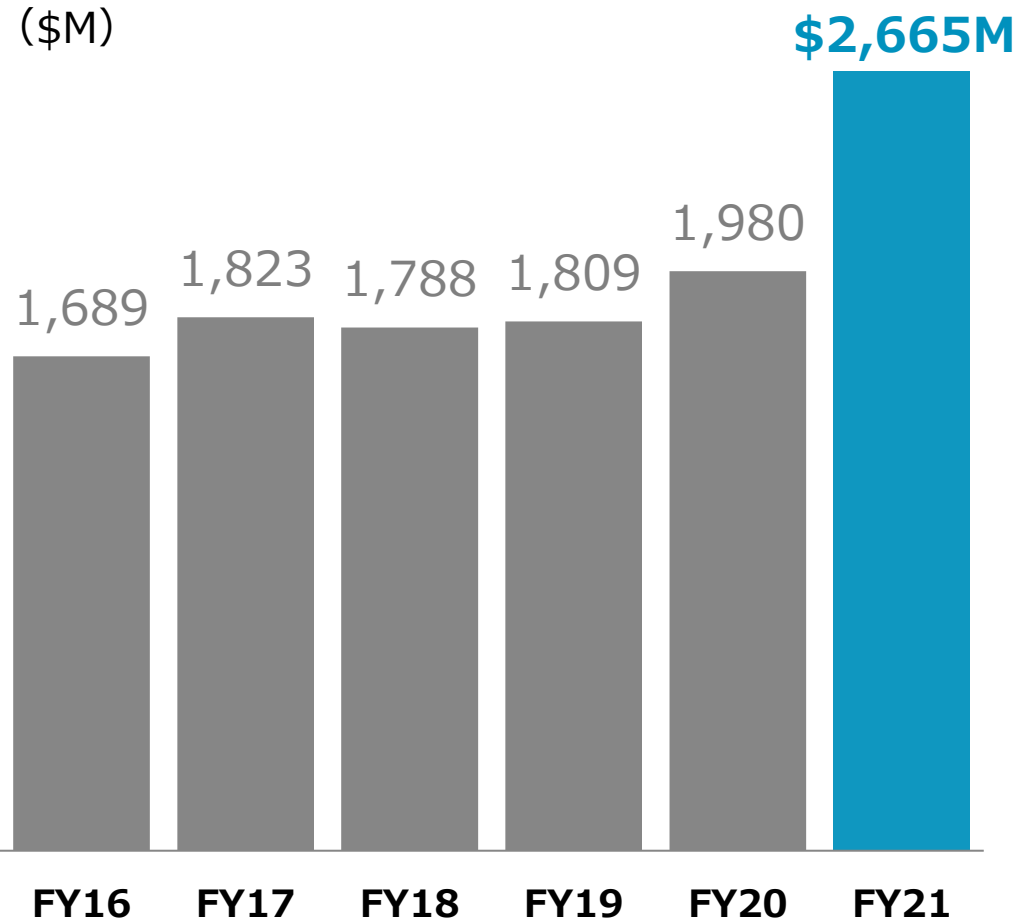
※ 括弧内は拠出額

*1 SVF1への当社の出資コミットメントは、アーム株式を活用した\$8.2B相当の支払義務履行分（全該当株式を拠出済み）のほか、SVF1に関連するインセンティブ・スキームへ活用される\$2.5Bを含む。

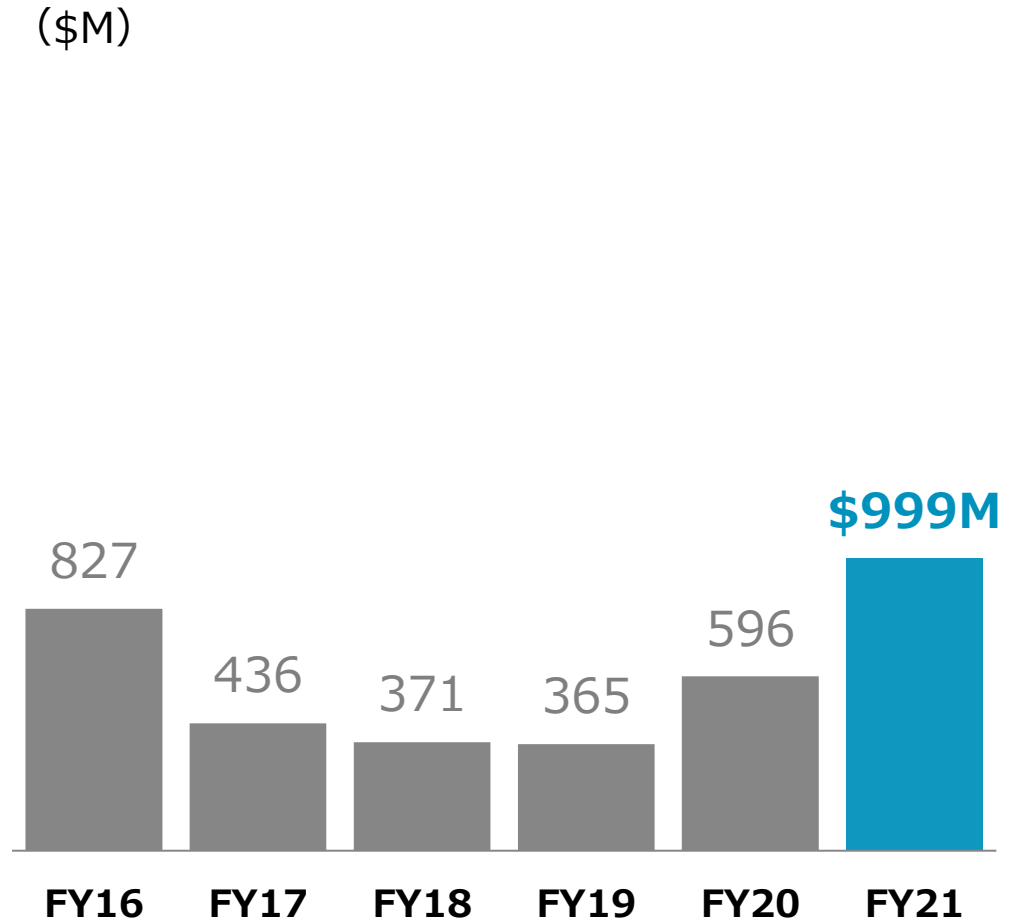
*2 孫 正義以外の経営陣の参加は2022年4月末現在未決定だが、将来的に参加を予定。2022年3月末時点で出資は全額が未払い

アーム：売上高・調整後EBITDA

売上高*1（年間）



調整後EBITDA*2（年間）

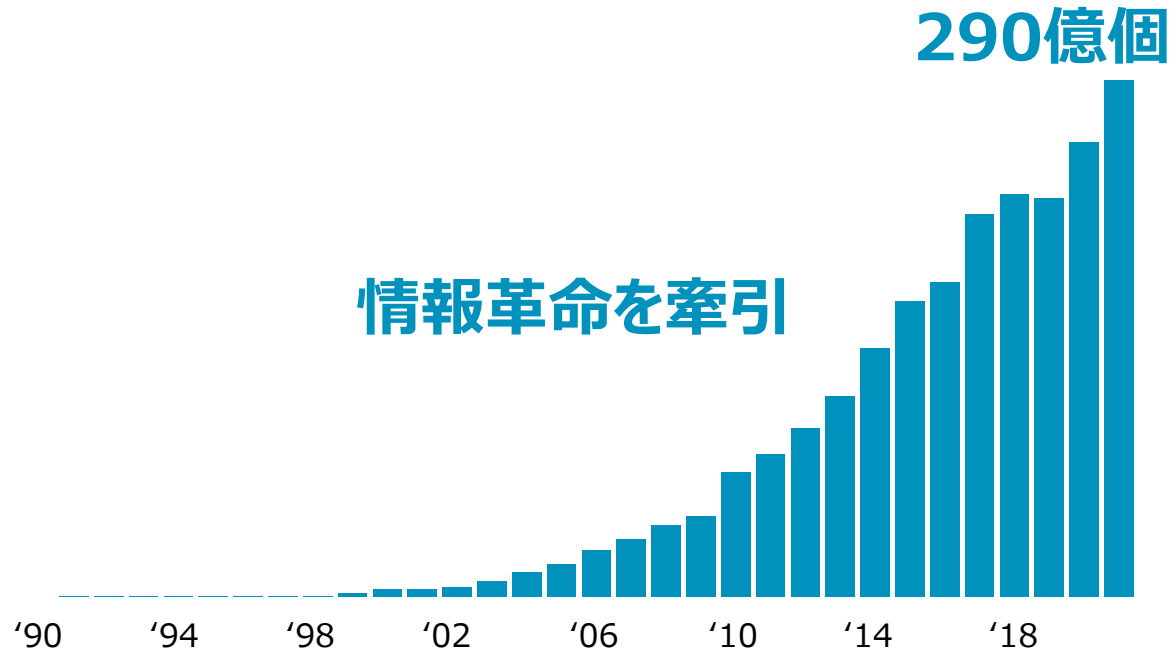


(注)

1. 出所：アーム
 2. IFRSを基準としているが、完全に準拠しているとは限らない。
 3. 全ての数字は未監査であり、方向性を示す目的としてのみ情報を提供する。
 4. 全ての数字は暫定的なものであり、変更になる可能性がある。
 5. SBG、SVF1、SVF1のジェネラル・パートナー又はSBIAが情報の正確性を保証するものではなく、情報を更新する義務を負わない。
- *1 FY17以降：ISG事業を除く。
 *2 FY18～FY19：ISG事業に係る直接費用を除く。FY20～FY21：ISG事業に係る直接費用およびISG事業に関連する本社費用を除く。
 ISG事業：Internet-of-Things Services Group；IoTに関連するサービスグループ

アーム：上場準備へ

アームベースチップ出荷数（単年）*1



マーケットシェア*2

モバイル
95%

IoT
63%

成長産業のキープレイヤーに

自動車
24%

クラウド
5%

上場準備へ アームチャイナのガバナンスは正常化*3

(注) 本スライドは例示のみを目的として提供しており、アームから提供された情報に基づいて作成している。SBG、SVF1、SVF1のジェネラル・パートナー又はSBIAが情報の正確性を保証するものではなく、情報を更新する義務を負わない。

*1. アームベースチップ出荷数：単年の出荷数（出所）アーム

*2. モバイル：スマートフォンとタブレットのアプリケーションプロセッサにおけるマーケットシェア(数量ベース)、IoT：産業向け・IoT製品向けの組込型チップ及びIoTチップにおけるマーケットシェア(数量ベース)、自動車：プロセッサを搭載した自動車向けチップにおけるマーケットシェア(数量ベース)、クラウド：クラウド事業者のサーバにおけるマーケットシェア(数量ベース)、各2021年の年間マーケットシェア（出所）アームによる推定(2022年4月提供)

*3. 詳細は、2022年2月8日付プレスリリース「当社子会社Arm Limited全株式の売却契約の解消及びArm Limitedの株式上場の準備に関するお知らせ」、および、2022年4月30日付プレスリリース「Arm China Majority Shareholders Announce the Company's Corporate Governance Issue Has Been Resolved」を参照

- 投資事業の状況
- **財務の状況**
- 財務戦略
- ESGの推進

FY21Q4の主な財務活動

アセットバック・ファイナンスを機動的に実施

| | | |
|-------------------|--------------------|-------------------|
| 社債 | 国内劣後社債 | |
| | 国内劣後社債の発行（2月） | +5,500億円（+\$4.7B） |
| | 国内劣後社債の満期償還（2月） | -4,044億円（-\$3.5B） |
| アセットを活用した 資金調達 | アーム株式 | |
| | アセットバック・ファイナンス（3月） | +\$8.0B（+9,368億円） |
| | アリババ株式 | |
| | フォワード取引（1月、3月） | +\$4.1B（+4,833億円） |
| | Tモバイル株式 | |
| | カラー取引（3月） | +\$0.7B（+798億円） |
| | マージン・ローンの返済（3月） | -\$0.6B（-685億円） |

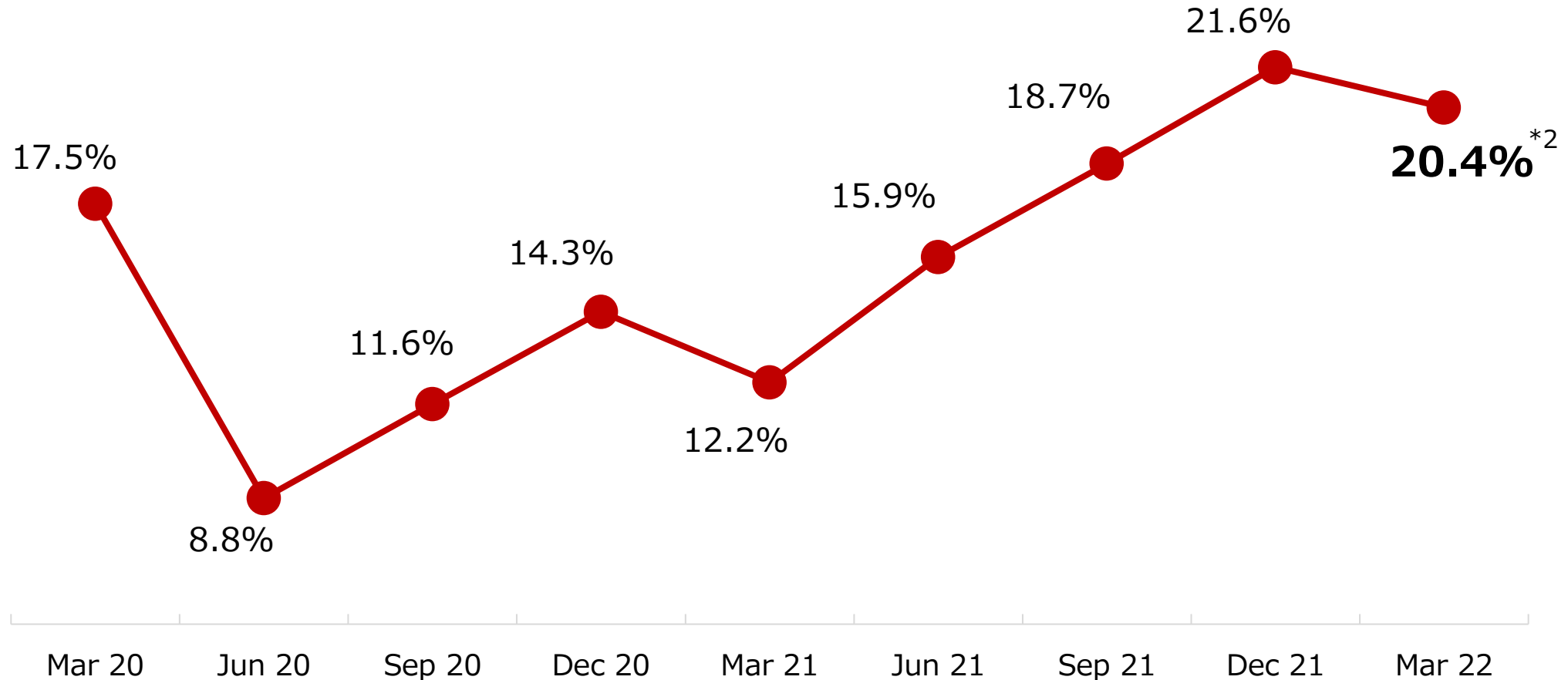
（注）社債の償還金額は額面ベース。1ドル=117.10（期中平均レート）にて算出

LTVの推移*1

十分な財務バッファを引き続き確保

アセットファイナンス除く

25%



*1 各四半期末時点の数値を記載

*2 詳細は、Appendix「LTVの算出：SBG単体 純有利子負債」および「LTVの算出：SBG単体 保有株式価値」に記載

手元流動性

社債償還2年分を超える潤沢な手元流動性を維持

手元流動性

社債償還スケジュール*2

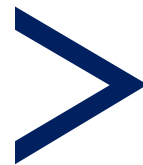
2.9兆円*1

(億円)

1,247 } コミットメントライン未使用枠*3

27,499

今後2年間の社債償還 (1.3兆円)



4,260

8,732

7,118

10,212

Mar 22

Apr 22 - Mar 23

Apr 23 - Mar 24

Apr 24 - Mar 25

Apr 25 - Mar 26

1年後

2年後

3年後

4年後

*1 現金及び現金同等物+流動資産に含まれる短期投資+コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース（SB Northstarを除く）

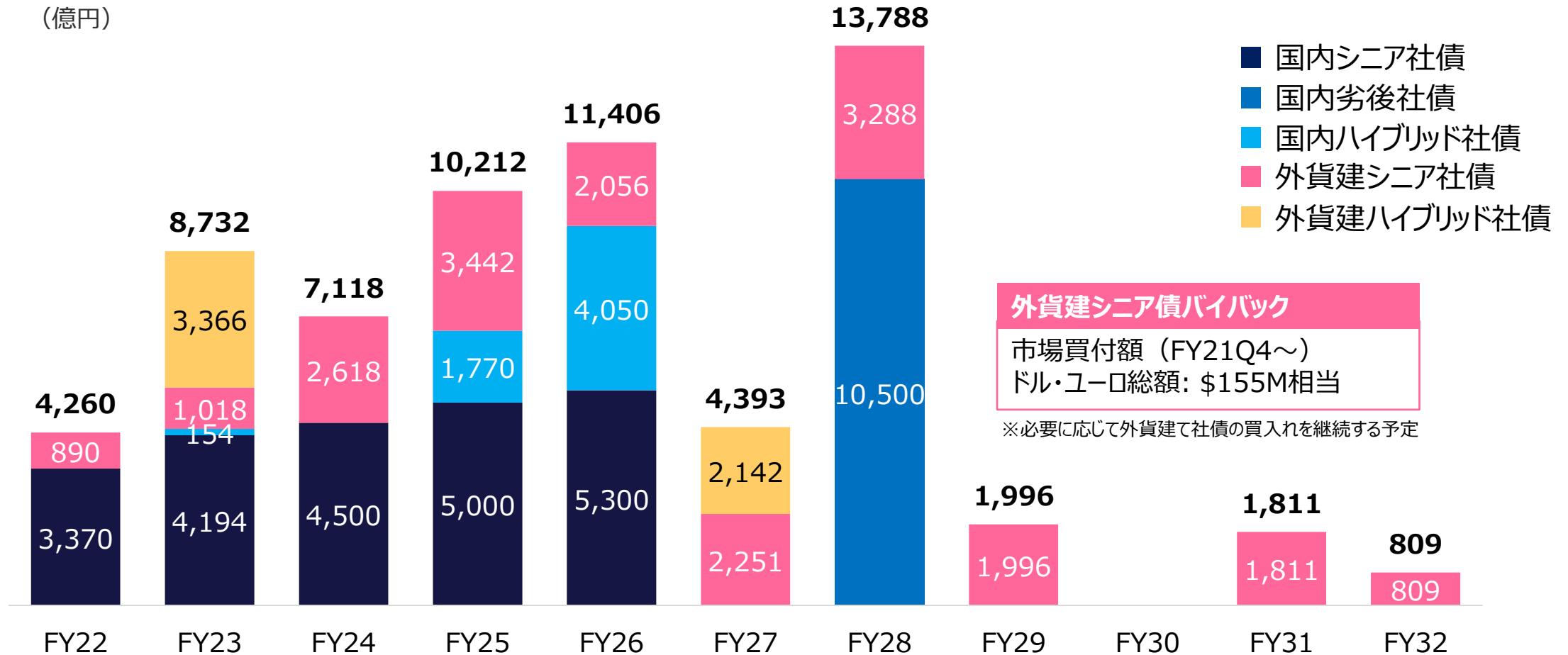
*2 社債償還金額はバイバックにより取得した社債を除く

*3 2022年3月末時点のコミットメントライン総額6,755億円のうち未使用枠は1,247億円

社債償還スケジュール

市場環境に配慮した起債運営により償還対応

(億円)



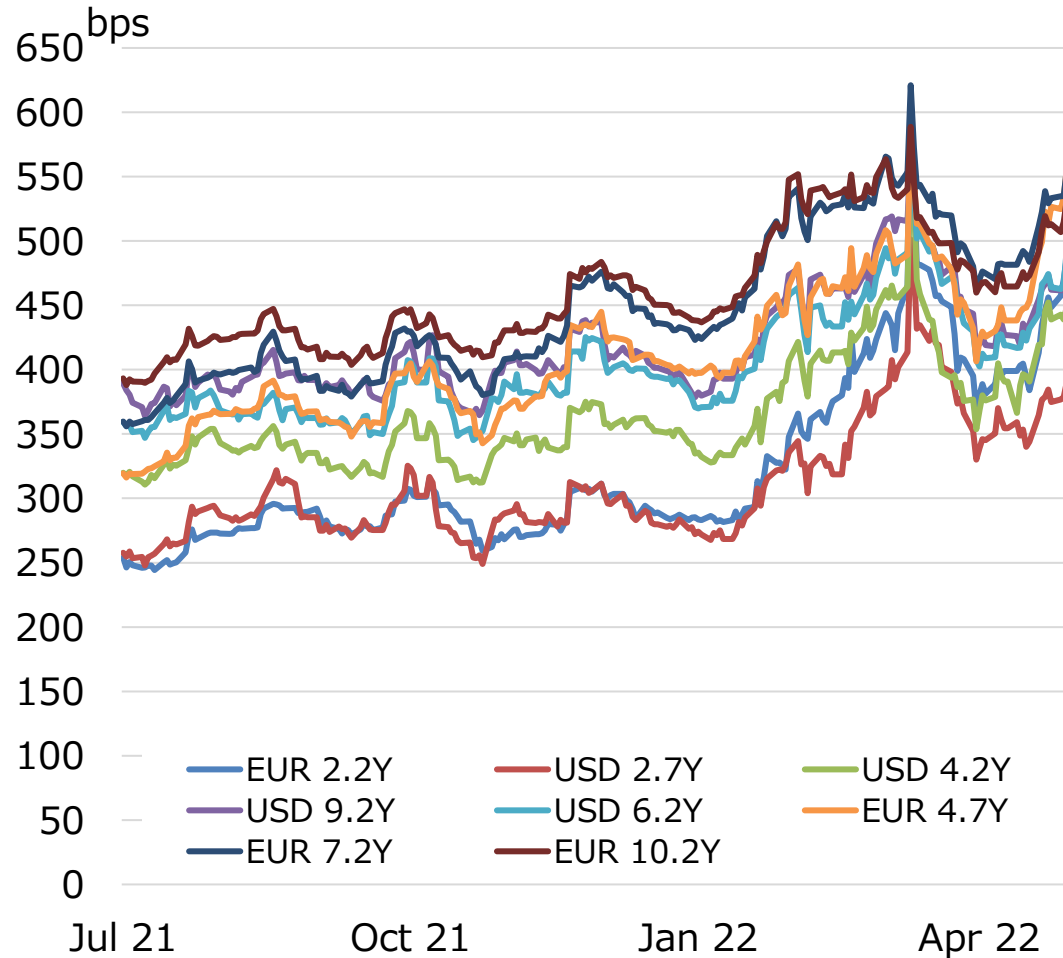
外貨建シニア債バイバック
 市場買付額 (FY21Q4~)
 ドル・ユーロ総額: \$155M相当
 ※必要に応じて外貨建て社債の買入れを継続する予定

(注)
 1. 2022年3月31日時点発行残高
 2. ハイブリッド社債は、すべて初回コール日に早期償還するケース
 3. 外貨建社債は、スワップを締結しているものはスワップレートにて換算、それ以外は1ドル=122.39円、1ユーロ=136.70円にて換算
 4. バイバックにより取得した社債を除く

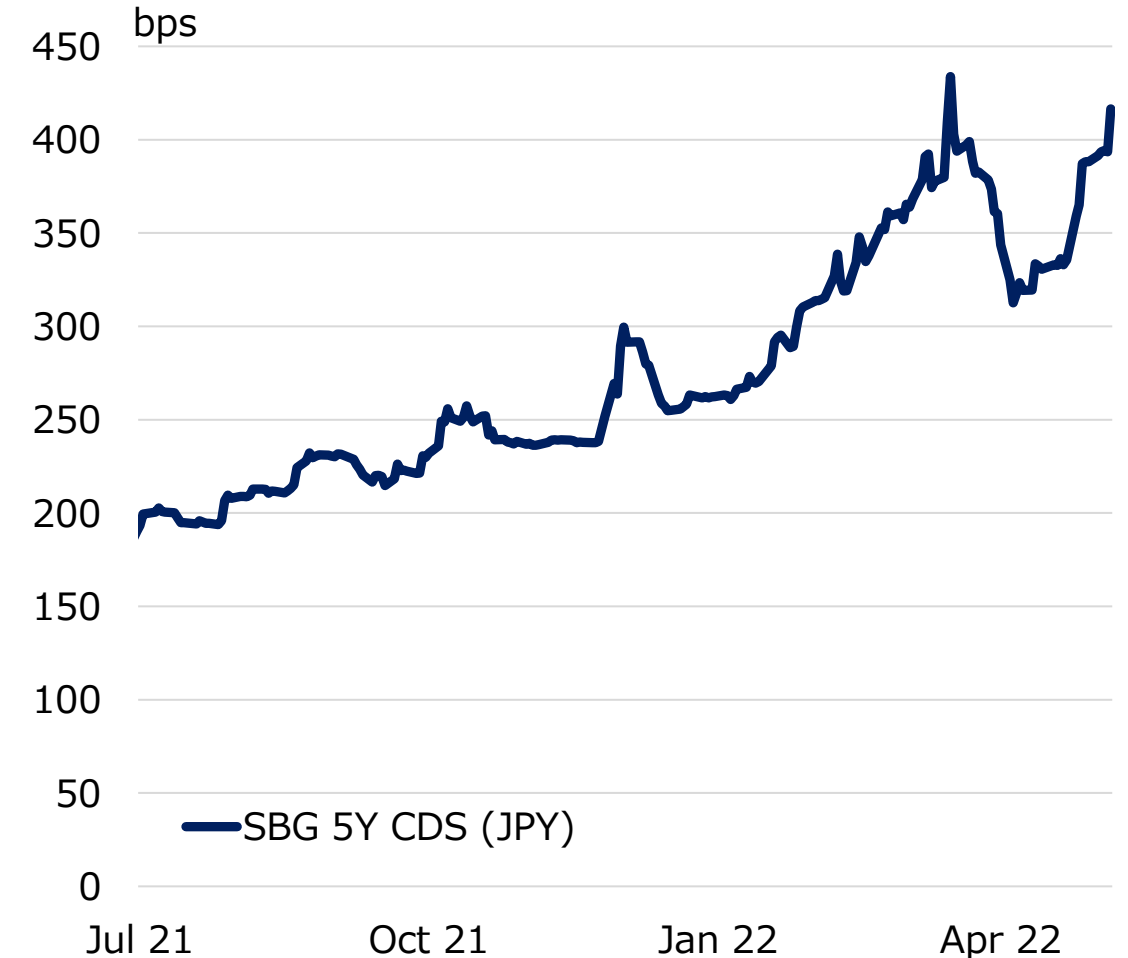
当社クレジットスプレッドの状況

クレジット市場の悪化を背景に、年初から当社クレジットは軟化

SBG外債スプレッド



SBG 5年CDS



(注) 2022年5月6日時点。Bloombergを基に当社作成。2021年7月発行のシニア外債のZスプレッドを参照

アーム株式を活用したアセットバック・ファイナンス（2022年3月）

IPOを目指すアーム株式の早期資金化。財務柔軟性の向上に寄与

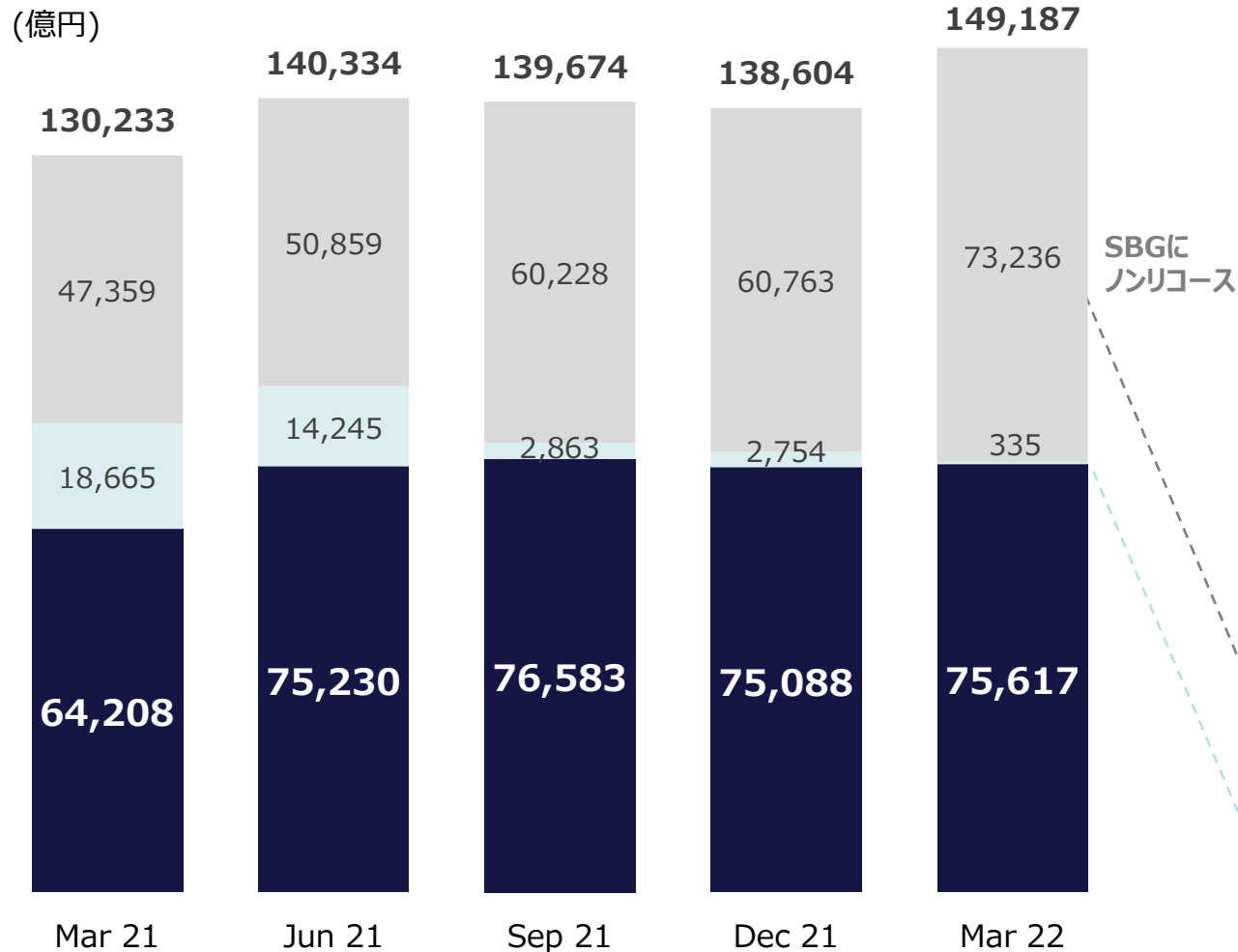
| 調達条件 | |
|--------------------|--|
| 調達総額 | 80億米ドル |
| 担保 | SBG保有のアーム株式（75.01%）等 |
| リコース | SBGにノンリコース |
| 返済方法 | 期日一括返済 |
| 返済期日 ^{*1} | 1. アームのIPO完了から3ヶ月後 2. 借入から24ヶ月後 のいずれか早い方 |

| 参加金融機関 |
|-----------------|
| JP Morgan |
| みずほ銀行 |
| Goldman Sachs |
| Barclays Bank |
| Banco Santander |
| 三井住友銀行 |
| Natixis |
| BNP Paribas |
| Deutsche Bank |
| Crédit Agricole |
| 大和PIパートナーズ |

*1 タームローンの返済期日

SBG単体 有利子負債*1

ノンリコース分除く有利子負債は横ばいで推移



2021年12月末からの主な変動要因

- 国内劣後社債の発行 +5,500億円
- 国内劣後社債の満期償還 -4,044億円
- アーム株式を活用したアセットバック・ファイナンス +\$8.0B
- アリババ株式を活用した株式先渡売買契約の締結 +\$4.1B
- アリババ株式を活用した株式先渡売買契約の現物決済 -6,049億円

2022年3月末 内訳

| 2022年3月末 内訳 (億円) | |
|--------------------------|----------------|
| SBG 借入金 | |
| 銀行ローン | 11,707 |
| ハイブリッドローン | 835 |
| その他 | 9 |
| 小計 | 12,551 |
| SBG 社債・CP | |
| 国内シニア債 | 22,262 |
| 国内劣後債/ハイブリッド債 | 16,241 |
| 外債 | 20,680 |
| CP | 2,568 |
| 小計 | 61,751 |
| SBG リース負債 | |
| | 121 |
| 子会社 有利子負債 | |
| 株式先渡契約金融負債 | 45,366 |
| ドイツテレコム株式を活用したカラー取引 | 4,137 |
| アーム株式を活用したアセットバック・ファイナンス | 9,615 |
| マージン・ローン (SBGにノンリコース*2) | 14,118 |
| マージン・ローン (SBGにリコース*2) | 700 |
| SB Northstar | 335 |
| その他 | 494 |
| 小計 | 74,765 |
| 合計 | 149,187 |

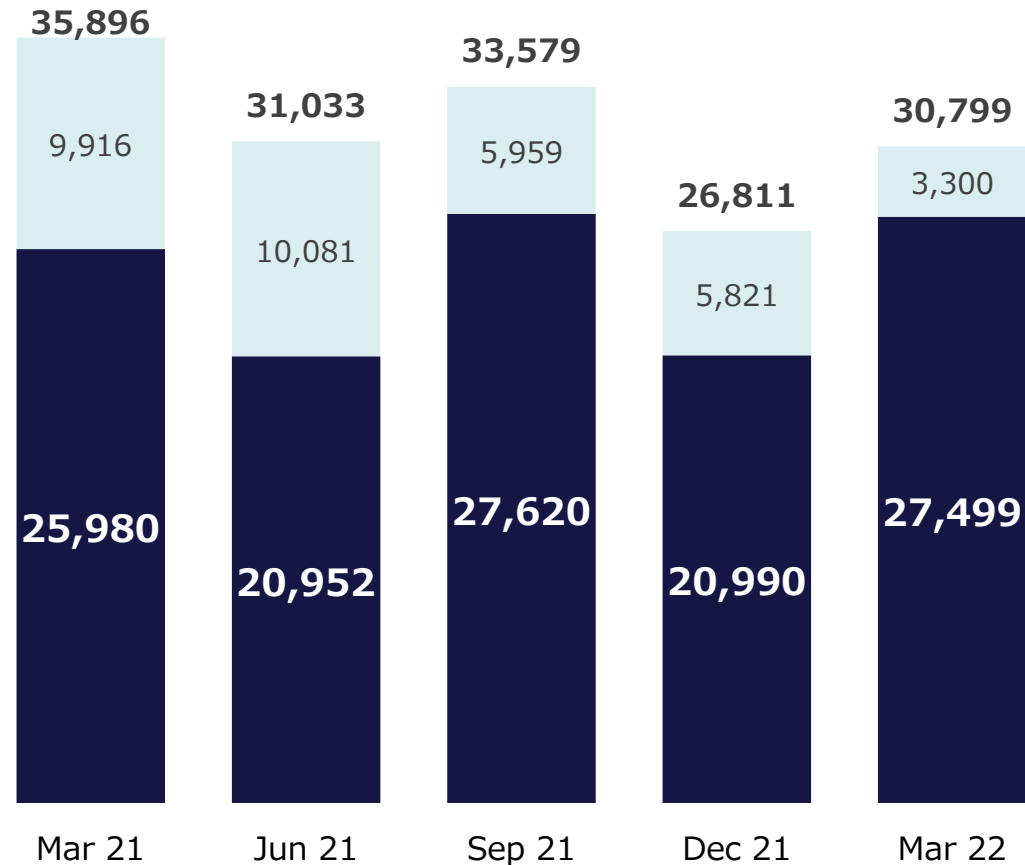
*1 SBG連結外部に対する有利子負債およびリース負債の合計

*2 TEMモバイル株式を活用したマージン・ローン(借入総額\$2.06B)については、例外的にSBGが一部保証しているため、当該保証債務の上限枠(\$0.57B)を控除した金額をノンリコースのアセットファイナンスによる借入額とする。尚、SBGが当該保証を履行する前提条件として、金融機関はまず当該マージン・ローンの担保に供されているアリババ株式から最大限回収を図ることが義務付けられている。

SBG単体 手元流動性

アセットバック・ファイナンスにより、手元流動性は増加

(億円)



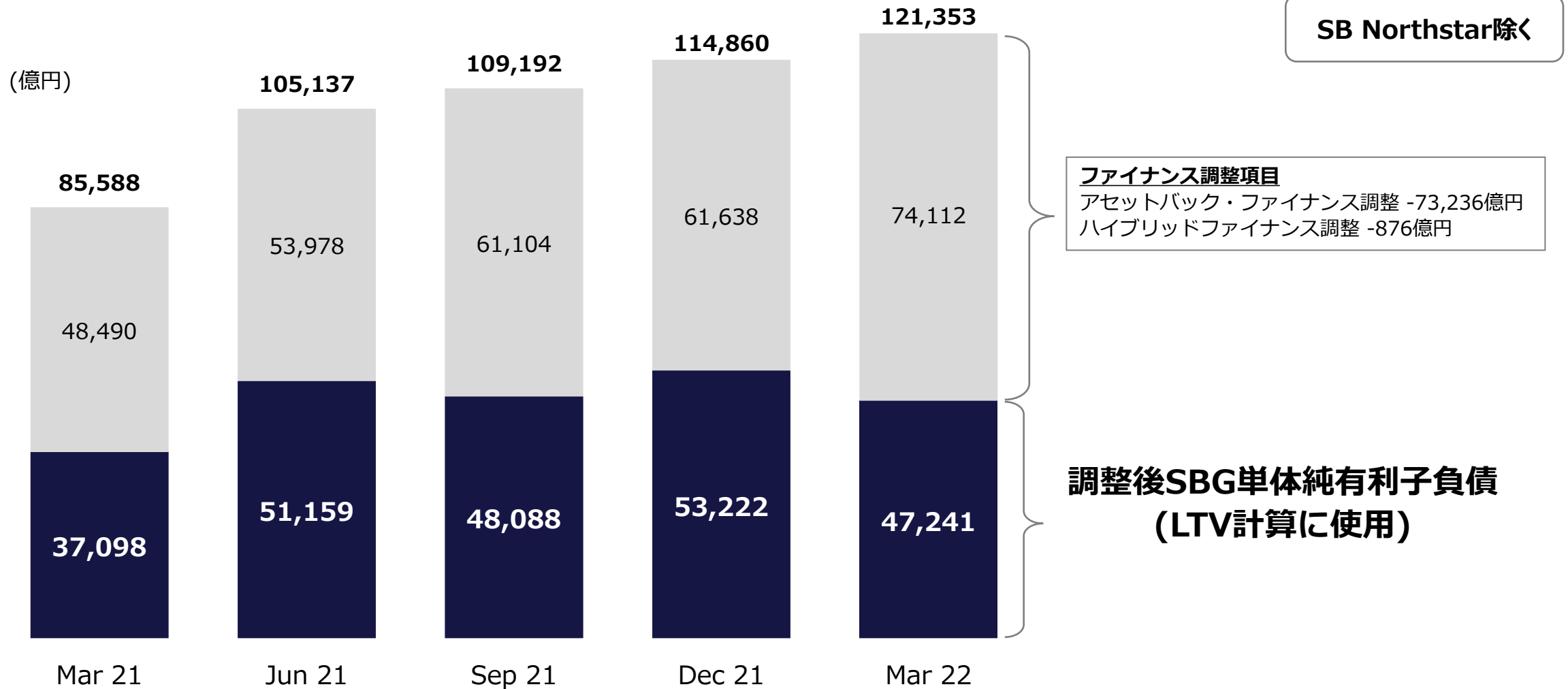
SB Northstar 手元流動性

| 2021年12月末からの主な変動要因 | |
|-------------------------------------|--------------------------|
| 増加 | 減少 |
| ・アーム株式を活用したアセットバック・ファイナンス (+\$8.0B) | ・SVF2のキャピタルコール (-\$4.8B) |
| ・国内劣後社債の発行 (+5,500億円) | ・国内劣後社債の満期償還 (-4,044億円) |
| ・アリババ株式を活用した株式先渡売買契約の締結 (+\$4.1B) | ・自社株買い (-2,739億円) |
| ・SVF1&2からの分配金 (+\$2.2B) | ・その他投資 (-\$1.7B) |

(注) 手元流動性 = 現金及び現金同等物 + 流動資産に含まれる短期投資(資産運用子会社からの投資等)。SBG単体ベース

SBG単体 純有利子負債

資金化加速により、調整後純有利子負債は減少

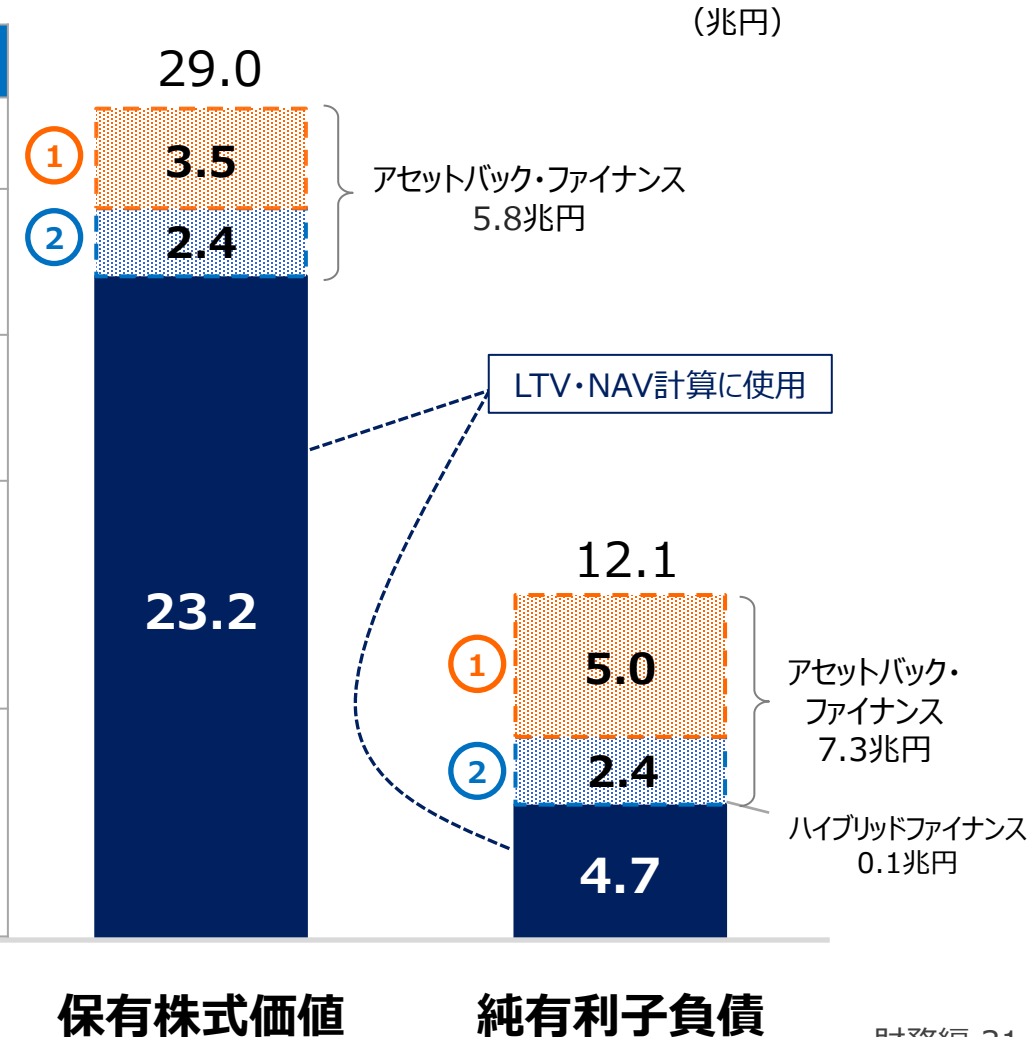


(注) 詳細は、Appendix「LTVの算出：SBG単体 純有利子負債」に記載

LTV・NAV計算におけるアセットバック・ファイナンス調整

ノンリコースのアセットバック・ファイナンスはデットから控除
同時に、決済に必要となるアセット価値をアセットから控除

| | ① フォワード／カラー／プット | ② マージンローン等 |
|-------------|--|--|
| 対象株式 | アリババ／Tモバイル／ドイツテレコム | アリババ／Tモバイル／SBKK／アーム |
| 内容 | 株式先渡契約 ^{*1} に基づく資金調達 (SBGにノンリコース) | 株式を担保に借入を行う資金調達 (SBGにノンリコース) |
| デット 控除額 | <ul style="list-style-type: none"> ・バランスシート計上金額 ・株価に関係なく不変 | <ul style="list-style-type: none"> ・バランスシート計上金額 ・株価に関係なく不変 |
| アセット 控除額 | <ul style="list-style-type: none"> ・期末株価を基に算出した満期決済金額の想定額 ・株価水準によって変動 | 返済に必要なアセット相当額 (バランスシート上のデット計上額) |
| 株価下落の 影響 | <ul style="list-style-type: none"> ・フロア価格を下回る株価では受渡金額が減少 ・追加担保等や期限前返済は不要 | <ul style="list-style-type: none"> ・一定の株価水準を下回る場合、追加担保や期限前返済が必要 ・返済金額は不変 |



*1 あらかじめ合意された価格 (フォワード) または価格レンジ (カラー・プット) で満期に対象株式を売買する契約を締結する

(参考) フォワード・カラー取引

| | |
|-----------------------|--|
| <p>目的</p> | <p>デリバティブを活用したノンリコースの資金調達</p> |
| <p>概要</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 将来時点で、当初合意した価格もしくはレンジで決済する取引 • 株式担保とそれを参照するデリバティブを見合いに資金調達 • 原則、満期において現金と株式による決済のいずれも選択可 • 株価下落で満期時の決済金額が減少、株価上昇で増加する |
| <p>フォワード取引</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 担保株式を、あらかじめ合意した先渡価格で決済 • 決済価格は、担保株式の株価変動にかかわらず固定。よって将来の株価上昇によるアップサイドは享受できない |
| <p>カラー取引</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 担保株式を、あらかじめ合意した価格レンジで決済 • 株価下落時でも、価格レンジ下限で決済可。他方、株価上昇によるアップサイドは価格レンジ上限に限定 |

- 投資事業の状況
- 財務の状況
- **財務戦略**
- ESGの推進

投資会社として最適な財務運営体制をすでに確立

①財務方針の堅持

②あらゆる変化に
対応できる柔軟かつ
機動的な財務運営

①財務方針の堅持

1. 通常時 LTV25%未満 で運用 (異常時でも上限35%)

2. 少なくとも 2年分の社債償還資金 を保持

3. SVF1&2や子会社から 継続的な配当収入 を確保

②あらゆる変化に対応できる柔軟かつ機動的な財務運営

- ◆ すでに投資会社として「投資」→「回収／資金化」→「再投資（一部株主還元）」のサイクルを確立
- ◆ この仕組みのもと、財務方針を堅持しつつ、投資活動・株主還元を継続

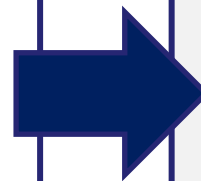
過去2年の運営実績

FY20

4.5兆円プログラムの資金化を原資に、大規模な自社株買いと財務改善を実施した結果、LTVは2020年3月末の17.5%から12.2%に改善

FY21

ファンドからの分配と資金化等の合計5.6兆円を活用して5.8兆円*1の新規投資・自社株買いを実施。LTVも20.4%でコントロール



今後の運営方針

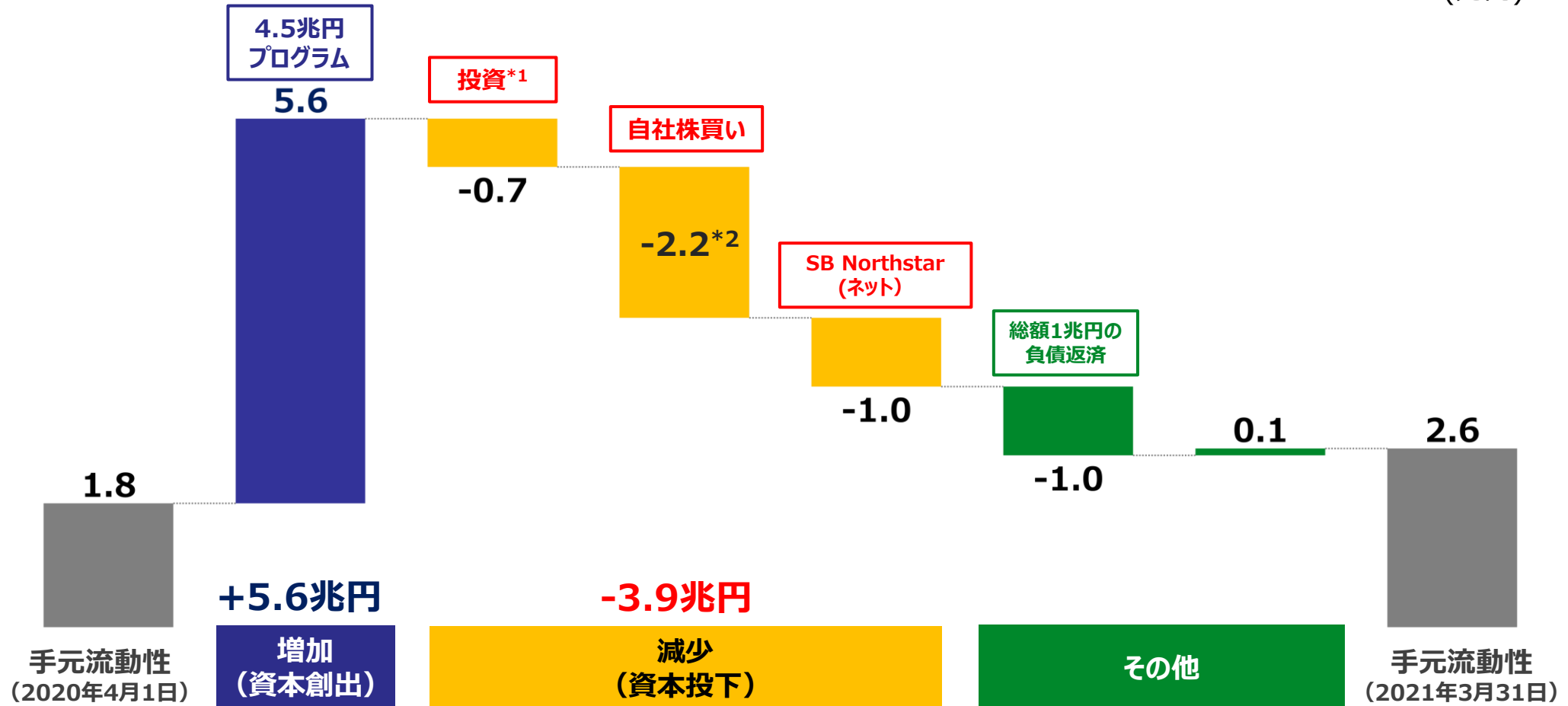
- ◆ 更なるダウンサイドに備えつつ、慎重に運営を続け、リスク要因を見極め
- ◆ 外部環境のあらゆる変化に柔軟かつ機動的に対応

*1 4.5兆円プログラムに基づく2021年4月～5月までの自己株式の取得額（2,578億円）を含む

FY20の投資回収サイクル：投資と資金化のブレイクダウン

4.5兆円プログラムにより創出した資本を主に自社株買い、財務改善に配分
SB Northstarへの投資を通じた余資運用を開始

(兆円)

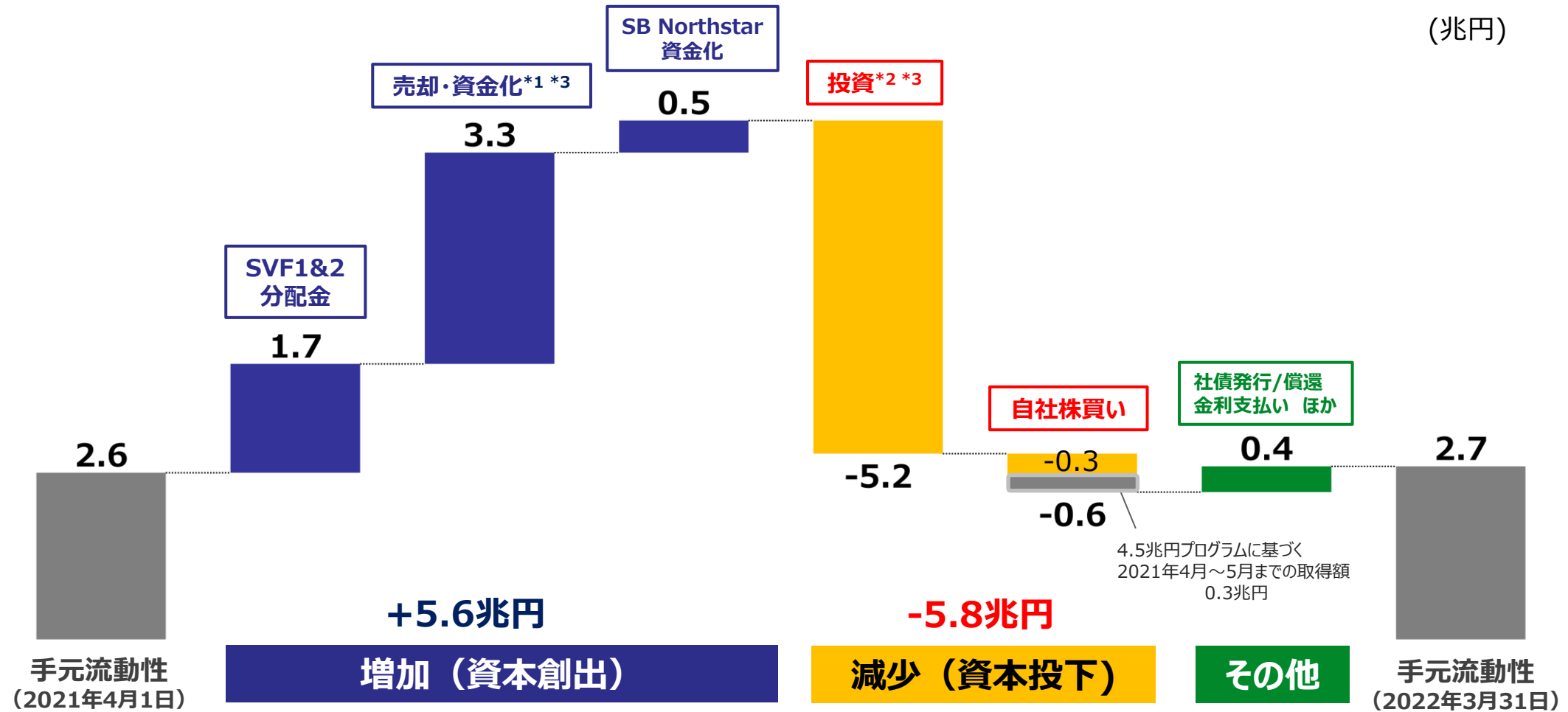


*1 SVF1&2およびラテンアメリカ・ファンドへの拠出額

*2 4.5兆円プログラム以前に決定された自己株式の取得 (取得期間: 2020年3月16日~2020年6月15日) のうち、FY20に取得した4,840億円を含む

FY21の投資回収サイクル：投資と資金化のブレイクダウン

様々な手段により創出した資本を主に新規投資に配分



*1 売却・資金化による収入と返済による支出の純額

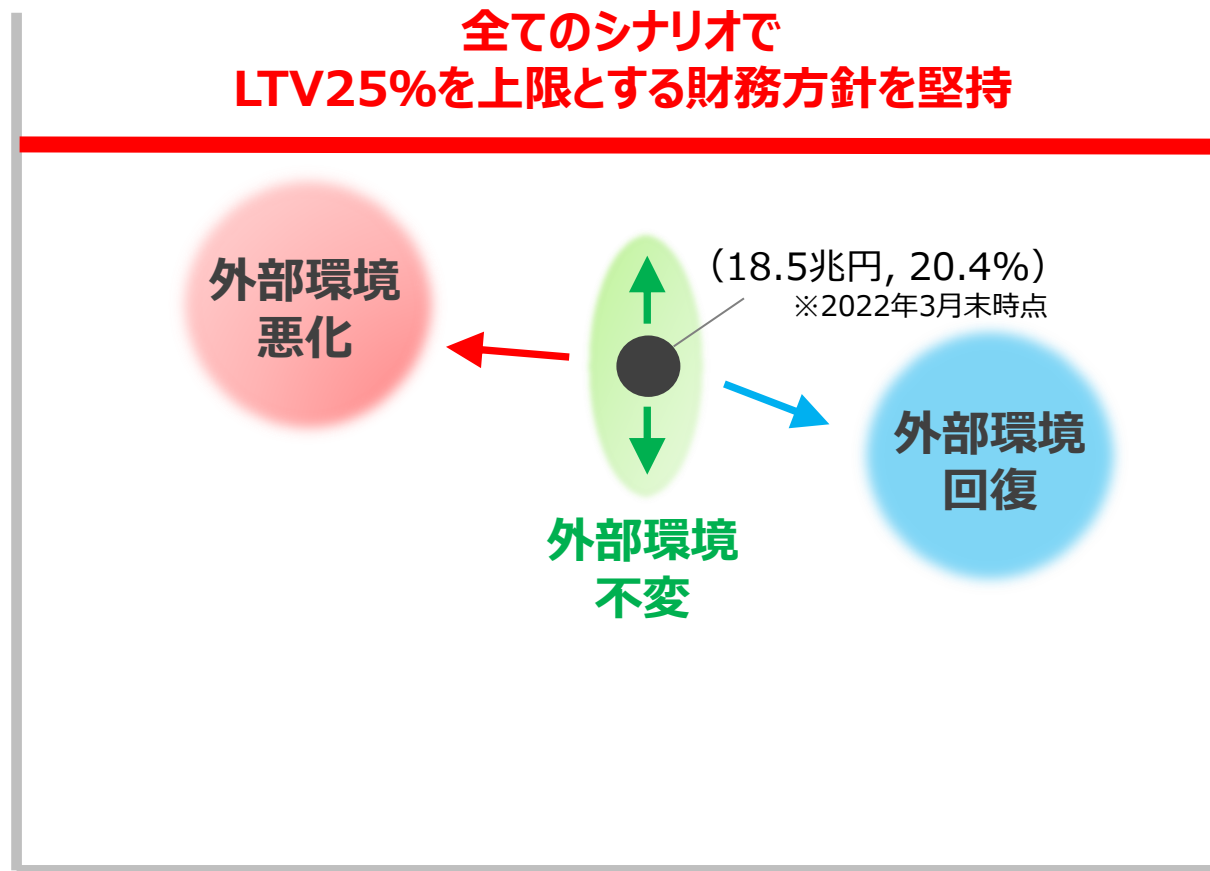
*2 SVF1&2およびラテンアメリカ・ファンドへの拠出額

*3 FY21にSBGからSVF2へ移管した投資 (0.7兆円) を含む。

FY22の財務運営方針（イメージ）

外部環境のあらゆる変化に柔軟かつ機動的に対応可能

LTV (%)



NAV (兆円)

| シナリオ | 前提 | 対応方針 |
|---------------|---|---|
| 外部環境不変 | 外部環境の不透明さが継続し、保有株式価値が2022年3月末から 不変 | 資金化の範囲内で新規投資と自社株買いを継続 |
| 外部環境回復 | 外部環境が回復し、保有株式価値が2022年3月末から 増加 | LTVを維持しながら投資加速のためのレバレッジ活用も視野に |
| 外部環境悪化 | 外部環境がさらに悪化し、保有株式価値が2022年3月末から 減少 | 資金化対比で新規投資を大幅にスローダウンすることでLTV25%未満を維持 |

自己株式の取得

取得内容

総額：1兆円（上限）

取得期間：2021年11月9日～2022年11月8日

考え方

1. 財務方針の堅持

2. 投資機会

3. NAVディスカウントの水準

**これらを考慮しながら機動的に
自己株式を取得**

**上記バランス次第では取得期間内に1兆円の上限に達しない
可能性あり**

取得実績

2021年11月～2022年4月：4,330億円（8,331万1,000株）

- 投資事業の状況
- 財務の状況
- 財務戦略
- **ESGの推進**

FY21の取り組み概要：ガバナンス

取締役会の多様性強化

- スキル・ジェンダー・国籍の点で多様性を実現
- 社外取締役が9人中5人と過半を占める

ESGに関するグループポリシーの整備

- 重要性の高いESG領域に関するグループポリシーを整備し、グループ全体でESGを推進
 - 『ポートフォリオ会社のガバナンス・投資指針に関するポリシー』改訂
 - 『環境ポリシー』新設
 - 『サプライヤー行動規範』新設
- 今後もESGに関する重要ポリシー策定や子会社との連携を推進し、**グループガバナンス体制の強化**を図る

FY21の取り組み概要：環境

温室効果ガス削減目標の設定および削減の推進

- 主要子会社：削減目標達成に向けて順調に推移

| | | | Z HOLDINGS | |
|-----------|---------------------------------|-----------------------------------|---|--|
| 目標 | 2030年までに ネットゼロカーボン達成 | 2030年度までに カーボンニュートラル達成 | 2030年度までに ZHDグループ全社で カーボンニュートラル達成 | 2023年度までに 使用電力の100% 再生可能エネルギー化 |
| 進捗 | FY21：自社使用電力の95% 再エネ化達成見込み | FY21：基地局再エネ比率 50%以上達成見込 | FY21：主要各社のGHG削減 のマイルストーン設定 | FY21：5月に再エネ電力 購入開始 |

- SBG：気候変動対応の取り組み強化

- SBG単体でカーボンニュートラル達成済
- 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）に沿った情報開示を検討
2022年6月までにグループ目標とともに開示予定

FY21の取り組み概要：社会

人権への取り組みの推進

- SBG
 - 全役職員を対象としたアンケートを実施し、当社における人権リスクを特定。対応策に活かす
 - 今後は取引先およびグループ全体を対象に、人権への取り組みの拡大を目指す
- SBKK
 - 主要なステークホルダーを対象に、人権DD（リスクの特定、評価、対策、コミュニケーション）を実施
 - 今後も継続的なモニタリング・改善を行い、更なるリスク低減を目指す

新型コロナウイルスへの対応

- 全国のべ13か所でのワクチン接種実施により、感染拡大防止に貢献*
 - 約24万接種完了（2022年5月5日現在）
 - 対象：医療従事者、地域住民、取引先社員、グループ社員および家族
- 機動的な唾液PCR検査提供が可能な「**移動式PCR検査車**」を開発
 - 国や自治体が進める新型コロナウイルスの検査体制確保に貢献



*1回目～3回目接種でのべ数。接種に協力している「東京乃木坂ワクチン接種センター」と「WeWorkみなとみらい会場」も含む

FY21の取り組み概要：投資を通じたESGの推進

気候変動の緩和、循環経済、多様性や包摂の確保、格差や差別の解消等、ESGの推進に寄与するサービスを提供するスタートアップに積極的に投資

※下記は投資先・支援先の一部

SVF2

SB Opportunity Fund

Emerge

情報開示の拡充と主なESG Index等の状況

情報開示の拡充

- ・ アニュアルレポートおよびサステナビリティレポートにおける非財務情報の拡充
 – 開示対象会社および対象施策を大幅拡充。今後も継続的に開示拡充を行う

主なESG IndexおよびESG評価の状況

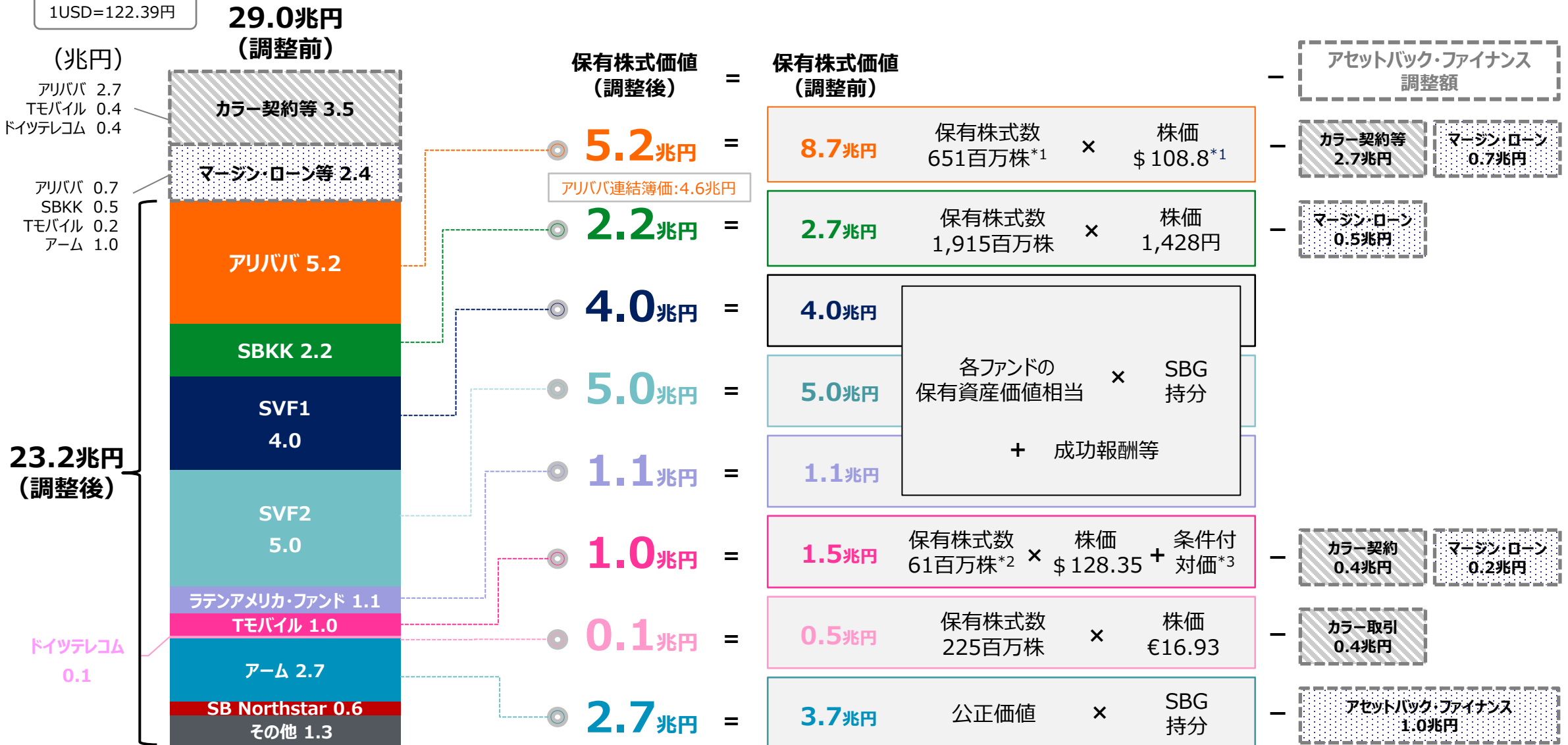
- ・ 取り組み強化と開示の拡充により、主要ESG Index評価等が継続的に改善

| | GPIF採用 ESG Index | | | | | その他 | 環境 |
|----|-------------------------------|---|----------------------------------|------------------------------|-------------------------------------|---|----------------|
| 名称 | FTSE Blossom Japan | FTSE Blossom Japan Sector Relative Index | MSCI JPN ESGセレクトリーダーズ | MSCI / JPN 女性活躍指数 | S&P/JPX カーボン エフィシエント | S&P Global Corporate Sustainability Assessment | CDP |
| 分野 | ESG総合 | ESG総合 | ESG総合 | S：社会 | E：環境 | ESG総合 | E：環境 |
| 組入 | ○ | ○ | — | ○ | ○ | 73 (セクター上位15%) | A- |

Appendix

保有株式価値（算出方法）

1USD=122.39円



Mar 22

(注) 各計算式の詳細はp50~51,53参照。 *1 SBGの保有株式数に相当する米国預託証券数および同証券の株価
 *2 ドイツテレコムが保有する株式購入オプションの対象となる株式数を含む。 *3 一定の条件下でTモバイル株式をSBGとその子会社が取得できる権利の公正価値

LTVの算出：SBG単体 保有株式価値

(L) 調整後 SBG単体 純有利子負債

4.72兆円

=20.4%

(V) 調整後
SBG単体 保有株式価値*1

23.18兆円



| | | | | | |
|---------------------|--------------|-------------------|--------------|--------------------|--------------|
| アリババ | +8.67 | SBKK | +2.73 | Tモバイル | +1.49 |
| アセットバック・ファイナンス | -3.44 | アセットバック・ファイナンス | -0.50 | アセットバック・ファイナンス | -0.53 |
| アリババ (調整後) | +5.23 | SBKK (調整後) | +2.24 | Tモバイル (調整後) | +0.96 |
| ドイツテレコム | +0.52 | アーム | +3.68 | | |
| アセットバック・ファイナンス | -0.42 | アセットバック・ファイナンス | -0.96 | | |
| ドイツテレコム(調整後) | +0.10 | アーム (調整後) | +2.71 | | |

| | | | |
|---------------------------|-------|--------------|-------|
| SVF1 | +3.99 | SB Northstar | +0.58 |
| SVF2 | +4.96 | その他 | +1.28 |
| ラテンアメリカ・ファンド [®] | +1.13 | | |

*1 調整後SBG単体保有株式価値の各アセット別の詳細についてはp50~51を参照

LTVの算出：SBG単体 保有株式価値 詳細①

(兆円)

| 保有株式 | 金額 | 計算方法 |
|-------------------------|-------------|--|
| (a) アリババ | 5.23 | |
| 調整前 | 8.67 | SBGの保有株式数に相当する米国預託証券数×同証券の株価 |
| アセットバック・ファイナンス調整 | -3.44 | 下記のアセットバック・ファイナンスの決済に必要な金額を控除 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の先渡し買契約（フロア契約・カラー契約・フォワード契約・コールスプレッド）のうち、未決済分の満期決済金額（2022年3月31日の同社株価（米国預託証券）で算出）の合計額（2兆7,072億円） ・マージン・ローン負債残高相当額（7,315億円） |
| (b) SBKK | 2.24 | |
| 調整前 | 2.73 | SBGの保有株式数×同社株価 |
| アセットバック・ファイナンス調整 | -0.50 | SBKK株式を活用したマージン・ローン負債残高相当額（4,987億円） |
| (c) SVF1 | 3.99 | SVF1の保有資産価値相当に対するSBGの持分 + 成功報酬の見込み金額等 |
| (d) SVF2 | 4.96 | SVF2の保有資産価値相当に対するSBGの持分等 |
| (e) ラテンアメリカ・ファンド | 1.13 | ラテンアメリカ・ファンドの保有資産価値相当に対するSBGの持分+成功報酬の見込み金額 |
| (f) アーム | 2.71 | |
| 調整前 | 3.68 | SVF1において算出されたアームの全株式の公正価値に基づくSBG持分（発行済株式の75.01%）の公正価値 |
| アセットバック・ファイナンス調整 | -0.96 | SBGが保有する同社株式を活用したアセットバック・ファイナンスによる借入の負債残高相当額（9,615億円） |

LTVの算出：SBG単体 保有株式価値 詳細②

(兆円)

| 保有株式 | 金額 | 計算方法 |
|-------------------------|--------------|--|
| (g) Tモバイル | 0.96 | |
| 調整前 | 1.49 | SBGの保有株式数（ドイツテレコムが保有する株式購入オプションの対象となる株式数（2022年3月末時点：56,124,954株）を含む）×同社株価 + 一定の条件下でTモバイル株式（48,751,557株）をSBGが無償で取得できる権利の公正価値 + Tモバイルによる現金強制転換証券を発行する信託へのTモバイル株式の売却取引に関連して受領した、一定の条件下でSBGの子会社がTモバイル株式を取得できる権利の公正価値 |
| アセットバック・ファイナンス調整 | -0.53 | 下記のアセットバック・ファイナンスの決済に必要な金額を控除 ・ドイツテレコムが保有する未行使の株式購入オプションに係るデリバティブ金融負債 ・Tモバイル株式を活用したマージン・ローンの負債残高相当額（2,516億円）のうち、ノンリコースのアセットバック・ファイナンスとしている金額（1,816億円）*1 ・Tモバイル株式を活用した先渡売買契約（カラー契約）の満期決済金額（同社株価で算出）（3,502億円） |
| (h) ドイツテレコム | 0.10 | |
| 調整前 | 0.52 | SBGの保有株式数×同社株価 |
| アセットバック・ファイナンス調整 | -0.42 | 2021年10月に実行した同社株式を活用したカラー取引の満期決済金額（4,158億円） |
| (i) SB Northstar | 0.58 | SB NorthstarのNAV（Net Asset Value）に対するSBGの持分 + SBGが保有するNVIDIA Corporation株式数×同社株価 |
| (j) その他 | 1.28 | 上場株式：SBGの保有株式数×各上場株式の株価 非上場株式：SBGが保有する未上場株式等の公正価値 （公正価値で測定していない株式等はSBGのBS上の簿価）に基づいて算出 |
| SBG単体 調整後保有株式価値 | 23.18 | p50からの(a)～(j)までの合計額 |

*1 Tモバイル株式を活用したマージン・ローン（借入総額\$2.06B）については、例外的にSBGが一部保証しているため、当該保証債務の上限枠（\$0.57B）を控除した金額をノンリコースのアセットバック・ファイナンスによる借入額としている。

LTVの算出：SBG単体 純有利子負債

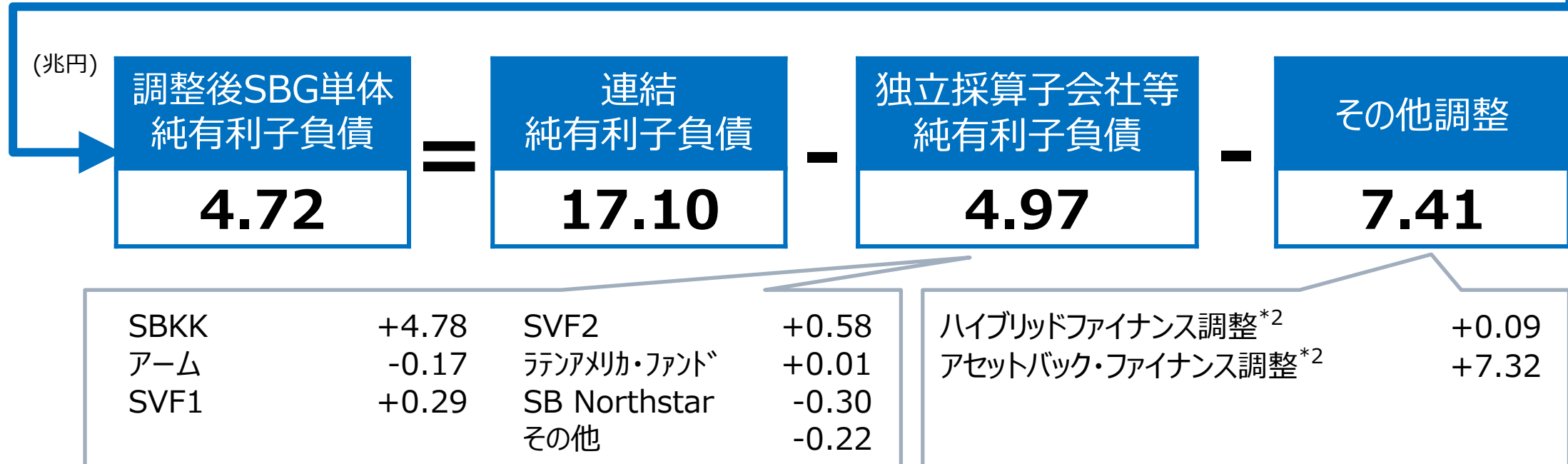
(L) 調整後
SBG単体 純有利子負債*1

4.72兆円

=20.4%

(V) 調整後SBG単体 保有株式価値

23.18兆円



*1 各事業の純有利子負債はSBG連結外部に対する有利子負債のみ。PayPay銀行の「銀行業の預金－手元流動性」は含まない。

*2 詳細についてはp53を参照

LTVの算出：SBG単体 純有利子負債 詳細

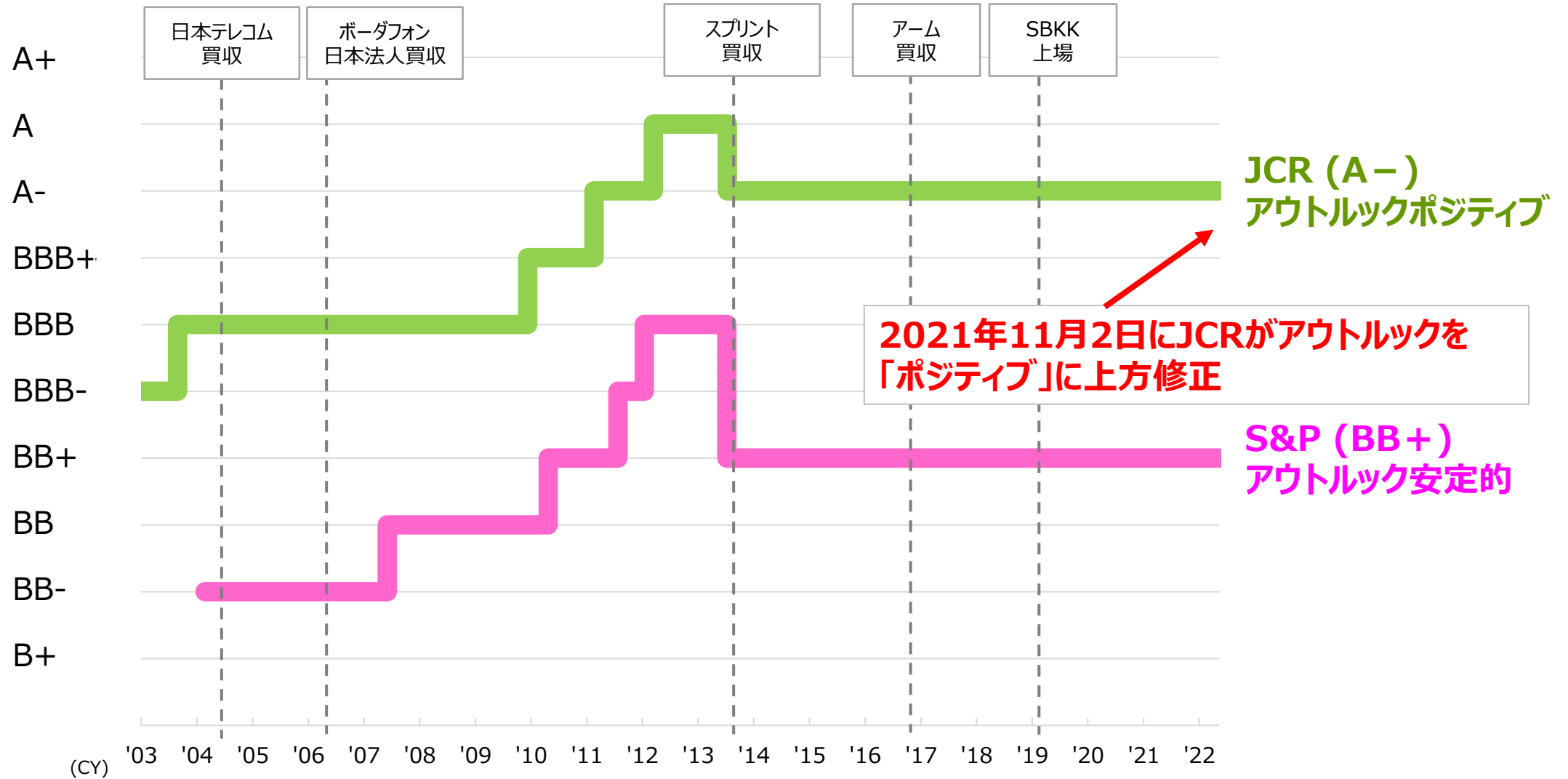
(兆円)

| SBG単体 調整前純有利子負債 | | 12.14 | 連結純有利子負債-独立採算子会社等の純有利子負債 |
|------------------|-------|-------|--|
| ハイブリッドファイナンス調整 | -0.09 | | <ul style="list-style-type: none"> ・2017年7月発行のハイブリッド債は、連結会計上、全額が資本計上されているため50%を有利子負債に算入 ・2016年9月・2021年2月・2021年6月発行のハイブリッド債および17年11月実行のハイブリッドローンは、連結会計上、全額が負債計上されているため50%を有利子負債から控除 |
| アセットバック・ファイナンス調整 | -7.32 | | |
| アリババ | -4.93 | | <ul style="list-style-type: none"> ・アリババ株式を活用した複数の先渡し買契約（フロア契約・カラー契約・フォワード契約）に係る株式先渡し契約金融負債（4兆1,961億円） ・アリババ株式を活用したマージン・ローン負債残高相当額（7,315億円） |
| アーム | -0.96 | | 同社株式を活用したアセットバック・ファイナンスによる借入の負債残高相当額（9,615億円） |
| Tモバイル | -0.52 | | <ul style="list-style-type: none"> ・Tモバイル株式を活用したマージン・ローンの負債残高相当額（2,516億円）のうち、ノンリコースのアセットバック・ファイナンスとしている金額（1,816億円）^{*1} ・Tモバイル株式を活用した先渡し買契約（カラー契約）に係る株式先渡し契約金融負債（3,404億円） |
| ドイツテレコム | -0.41 | | 2021年10月に実行したドイツテレコム株式を活用したカラー取引に係る負債残高相当額（4,137億円） |
| SBKK | -0.50 | | SBKK株式を活用したマージン・ローン負債残高相当額（4,987億円） |
| SBG単体 調整後純有利子負債 | | 4.72 | |

*1 Tモバイル株式を活用したマージン・ローン（借入総額\$2.06B）については、例外的にSBGが一部保証しているため、当該保証債務の上限枠（\$0.57B）を控除した金額をノンリコースのアセットバック・ファイナンスによる借入額としている。なお、SBGが当該保証を履行する前提条件として、金融機関はまず当該マージン・ローンの担保に供されているアリババ株式から最大限回収を図ることが義務付けられている。

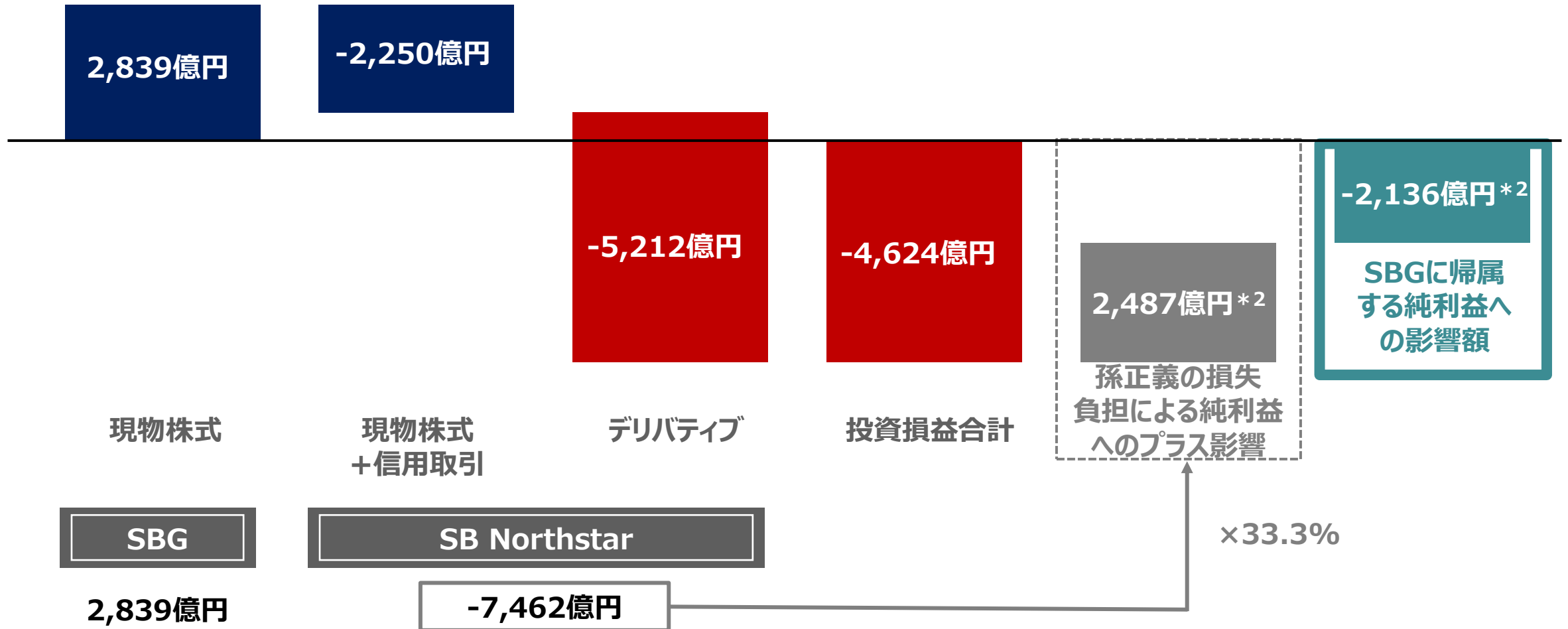
SBGの格付推移

投資持株会社の格付規準のもと、格付の向上を目指す



(注) 2022年5月13日時点

SB Northstar : 累計投資損益*1



*1 SBGが保有するNVIDIA Corporation株式に係る投資損益を含む。

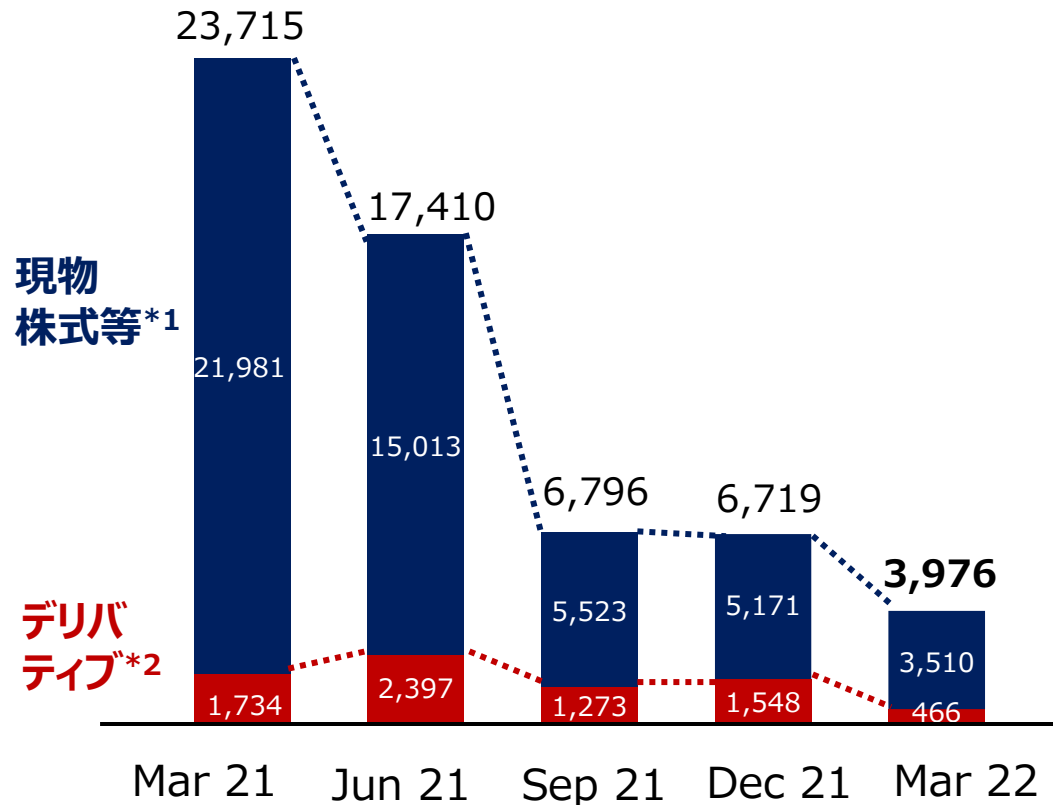
*2 販売費及び一般管理費や税金費用などの影響を含まない。

SB Northstar : 運用資産の状況 (2022年3月末時点)

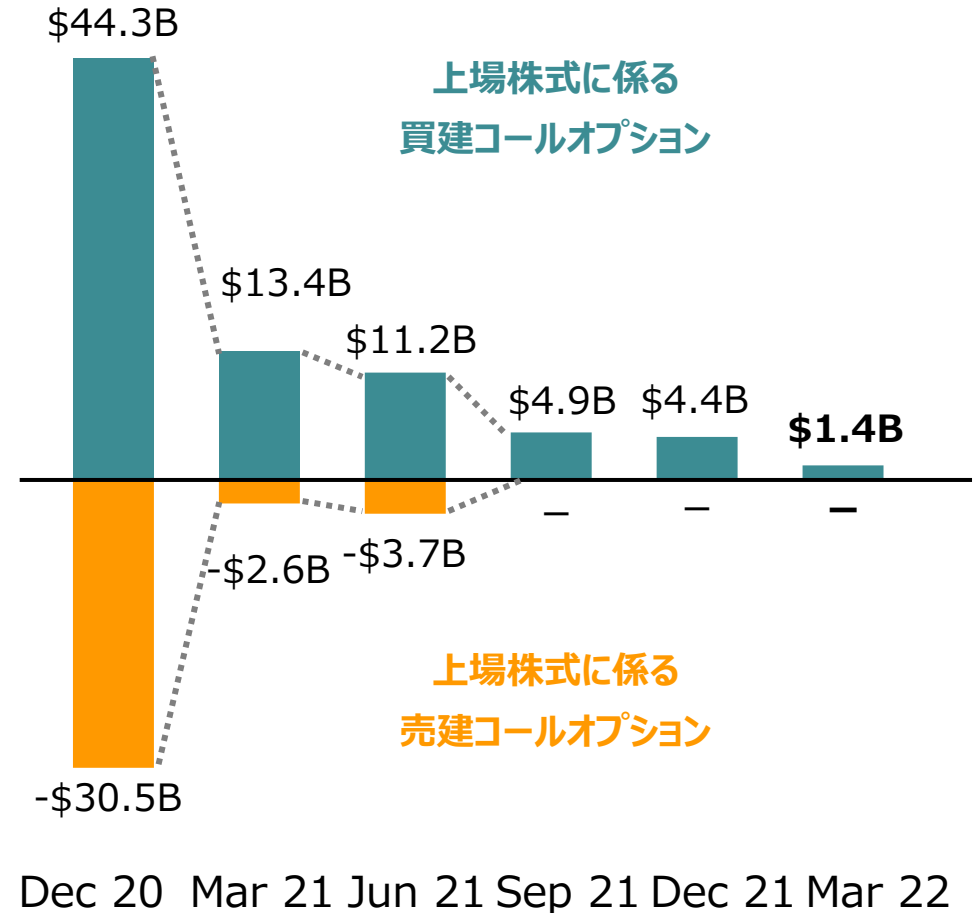
投資規模は大幅に減少

現物株式等およびデリバティブ (公正価値)

(億円)



オプション想定元本



*1 SBGが保有する現物株式とSB Northstarの投資 (現物株式、担保差入有価証券および転換社債) の合計

*2 SB Northstarにおけるデリバティブ金融資産とデリバティブ金融負債の純額

連結：有利子負債、手元流動性、純有利子負債

連結有利子負債*1

(単位:億円)

| | Mar 21 | Jun 21 | Sep 21 | Dec 21 | Mar 22 |
|------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| SBG単体 | 130,233 | 140,334 | 139,674 | 138,604 | 149,187 |
| うち、SB Northstar | 18,665 | 14,245 | 2,863 | 2,754 | 335 |
| SVF1&2 | 4,442 | 5,433 | 8,272 | 11,999 | 10,681 |
| ソフトバンク事業 | 56,921 | 62,274 | 59,691 | 61,680 | 59,994 |
| その他（アーム、ラテンアメリカ・ファンド等） | 3,884 | 4,296 | 3,357 | 3,457 | 3,374 |
| 合計 | 195,480 | 212,338 | 210,995 | 215,739 | 223,236 |

連結手元流動性*2

(単位:億円)

| | Mar 21 | Jun 21 | Sep 21 | Dec 21 | Mar 22 |
|------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| SBG単体 | 35,896 | 31,033 | 33,579 | 26,811 | 30,799 |
| うち、SB Northstar | 9,916 | 10,081 | 5,959 | 5,821 | 3,300 |
| SVF1&2 | 1,311 | 3,842 | 1,009 | 2,474 | 1,983 |
| ソフトバンク事業 | 12,856 | 14,013 | 10,575 | 12,834 | 12,219 |
| その他（アーム、ラテンアメリカ・ファンド等） | 5,248 | 4,742 | 5,146 | 6,137 | 7,228 |
| 合計 | 55,312 | 53,630 | 50,309 | 48,256 | 52,229 |

連結純有利子負債*3

(単位:億円)

| | Mar 21 | Jun 21 | Sep 21 | Dec 21 | Mar 22 |
|------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| SBG単体 | 94,337 | 109,301 | 106,096 | 111,793 | 118,388 |
| うち、SB Northstar | 8,749 | 4,164 | -3,096 | -3,067 | -2,965 |
| SVF1&2 | 3,131 | 1,591 | 7,263 | 9,525 | 8,698 |
| ソフトバンク事業 | 44,064 | 48,261 | 49,116 | 48,846 | 47,775 |
| その他（アーム、ラテンアメリカ・ファンド等） | -1,364 | -446 | -1,789 | -2,681 | -3,855 |
| 合計 | 140,168 | 158,708 | 160,686 | 167,483 | 171,006 |

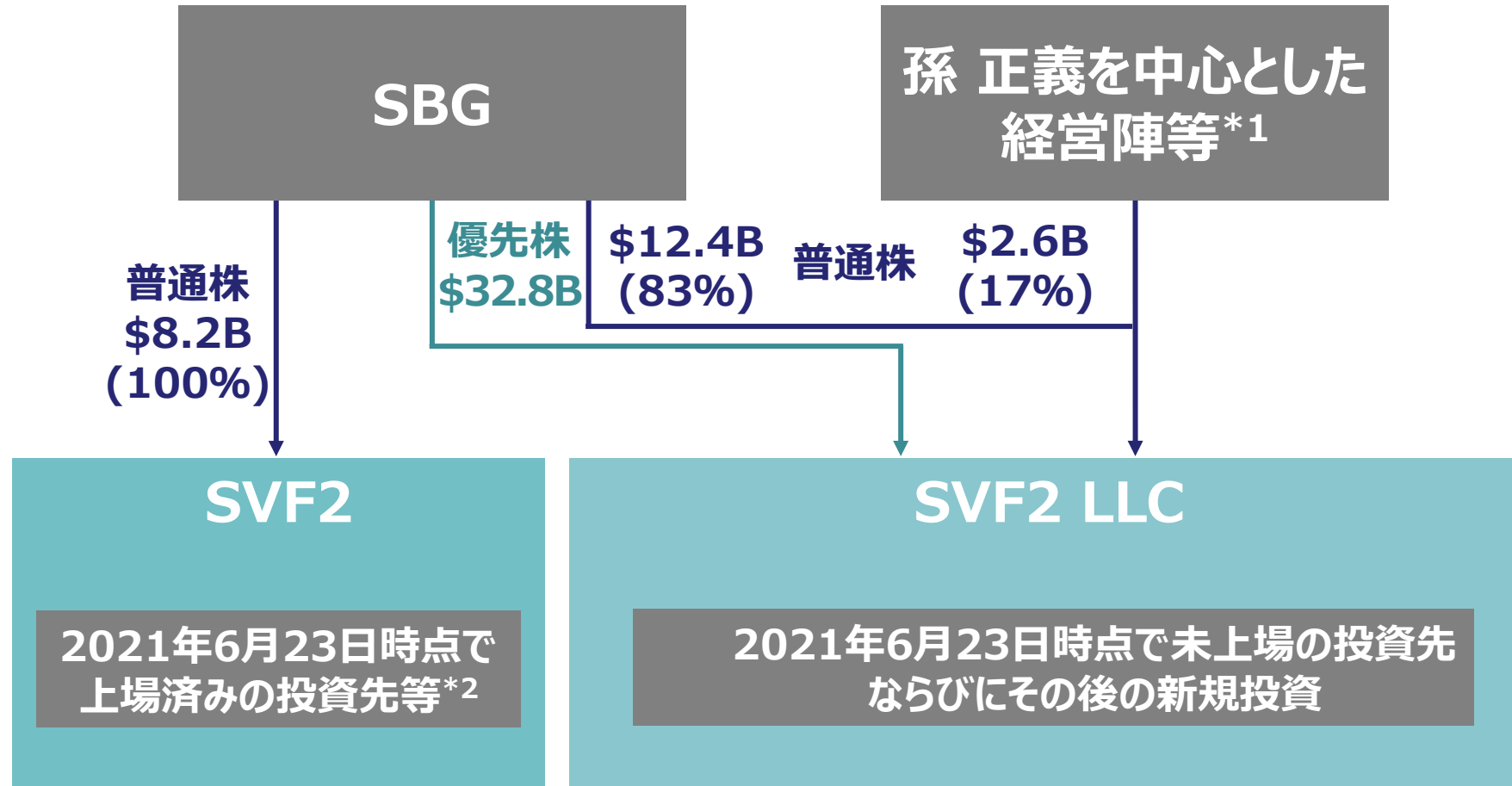
*1 SBG連結外部に対する有利子負債およびリース負債の合計。PayPay銀行の銀行業の預金は含まない。

*2 手元流動性 = 現金及び現金同等物 + 流動資産に含まれる短期投資。PayPay銀行の手元流動性は含まない。

*3 PayPay銀行の「銀行業の預金 - 手元流動性」は含まない。マイナス表記はネットキャッシュ

SVF2共同出資プログラムの導入

経営陣がSBGと共同出資し、利益のみならずそのリスクも共有の上、投資運用に専心し、当社の収益拡大への寄与を果たすことを目的に導入



(注) 2022年3月31日時点

*1 孫正義以外の経営陣の参加は2022年4月末現在未決定だが、将来的に参加を予定

*2 2021年6月23日時点で上場を公開申請していた投資先、取締役会がプログラムからの除外を承認した投資先を含む。